

令和 5 年 度

教 育 要 項

(別冊)

総合教育選択科目



自治医科大学 医学部

学籍番号 (所属)

氏 名

教育要項別冊 総合教育選択科目 目次

1. 科目番号表	1
2. 教育目標	3
3. 履修要領	3
4. 令和5年度開講日	5
5. 令和5年度選択科目時間割	7
6. 人文社会系科目	9
7. 自然系科目	51
8. 外国語系科目	77

1. 総合教育選択科目番号表

科目番号	L1	総合教育選択科目	主任教授	菊地 元史
------	----	----------	------	-------

L11 人文社会系

授 業 科 目	科目番号／科目名	責任者	ページ
L111 哲学	L1111-5 心と体の哲学	小 野 純 一	10
	L1111-6 西洋音楽史Ⅰ	吹 田 映 子	11
	L1111-7 西洋音楽史Ⅱ	吹 田 映 子	12
	L1111-8 西洋音楽史Ⅲ	吹 田 映 子	13
	L1111-9 西洋音楽史Ⅳ	吹 田 映 子	14
	L1113-1 医学・医療と芸術	吹 田 映 子	15
	L1113-6 西洋美術史	吹 田 映 子	16
	L1113-7 アートセラピー入門	吹 田 映 子	17
	L1114-4 仏教思想史Ⅰ	小 野 純 一	18
	L1114-5 仏教思想史Ⅱ	小 野 純 一	19
	L1115-1 キリスト教思想史Ⅰ	小 野 純 一	20
	L1115-2 キリスト教思想史Ⅱ	小 野 純 一	21
	L1118-5 生と死の生命倫理	渡 部 麻 衣 子	22
	L1118-6 英語で読む生命倫理	渡 部 麻 衣 子	23
	L1118-7 技術・社会・倫理	渡 部 麻 衣 子	24
	L1118-8 医療倫理入門	渡 部 麻 衣 子	25
	L1118-9 国家とは何か	小 野 純 一	26
	L1119-1 はじめての哲学	小 野 純 一	27
	L1119-2 哲学の入門	小 野 純 一	28
	L1119-3 言語文化入門Ⅰ（アラビア）	小 野 純 一	29
	L1119-4 言語文化入門Ⅱ（アラビア）	小 野 純 一	30
L112 心理学	L1122-3 対人交流の臨床心理学	佐々木 裕 子	31
	L1122-4 母子健康論と人格発達	佐々木 裕 子	32
	L1123-2 自己理解の心理アセスメント論	佐々木 裕 子	33
	L1124 心と体の心理支援法	佐々木 裕 子	34
L113 文学	L1134 文学への誘い	吹 田 映 子	35
	L1135 文学的探索	吹 田 映 子	36
L114 医学古典語	L1140-1 医学古典語Ⅰ	小 野 純 一	37
	L1140-2 医学古典語Ⅱ	小 野 純 一	38
L115 社会学	L1150 高齢社会論	青 山 泰 子	39
	L1151 社会を診る方法	青 山 泰 子	40
	L1153 医療人類学	田 中 大 介	41
	L1154 異文化理解入門	田 中 大 介	42
	L1155 社会学概論	田 中 大 介	43
	L1156 文化人類学概論	田 中 大 介	44
	L1157 医療と民俗学	菊 地 元 史	45
	L1158-1 メディアと社会	山 邊 昭 則	46
	L1158-2 科学と社会（法学入門）	山 邊 昭 則	47
	L1158-3 国際社会論	山 邊 昭 則	48
	L1158-5 ソーシャルデザイン論	山 邊 昭 則	49

L12 自然系

授 業 科 目	科目番号／科目名	責任者	ページ
L121 数学	L1210 医学・医療における数学	奥 田 浩	54
	L1212 基礎数理遺伝学演習	奥 田 浩	55
	L1215 臨床医学と数学	奥 田 浩	56
	L1216 ゲノム医療がもたらすもの	奥 田 浩	57
	L1217 パソコン・IT（インターネット）で学ぶゲノム医療	奥 田 浩	58
L122 物理学	L1220-4 光科学の医学・生命科学への応用	佐 藤 文 菜	59
	L1220-5 疾病関連タンパク質概論	山 本 直 樹	60
L124 生物学	L1241 発生生物学入門	佐 藤 滋	61
	L1242-3 「形」から学ぶヒトの生物学1	菊 地 元 史	62
	L1242-4 「形」から学ぶヒトの生物学2	菊 地 元 史	63
	L1243 生物多様性を考える	菊 地 元 史	64
	L1245 系統発生学入門	菊 地 元 史	65
L125 保健体育	L1254-1 体育学演習1	板 井 美 浩	68
	L1254-2 体育学演習2	板 井 美 浩	69
	L1254-3 体育学演習3	板 井 美 浩	70
	L1254-4 体育学演習4	板 井 美 浩	71
L126 医療安全学	L1262-1 医療における「学習」と「教育」	浅 田 義 和	72
	L1262-2 ICT時代の情報活用力	浅 田 義 和	73
	L1263 医療安全のための理論と実践	前 田 佳 孝	74
L127 薬理学	L1270 医薬品研究の歴史	興 水 崇 鏡	75

L13 外国語系

授 業 科 目	科目番号／科目名	責任者	ページ
L131 英語	L1315-7 World Countries and Culture I	R.Dilenschneider	79
	L1315-8 World Countries and Culture II	R.Dilenschneider	80
	L1316-7 Critical Thinking	R.Dilenschneider	81
	L1316-11 English Essay Writing	R.Dilenschneider	82
	L1316-13 Reading Concepts:Science & History	R.Dilenschneider	83
	L1316-14 Reading Concepts:Society & Wellness	R.Dilenschneider	84
	L1316-15 Music and Lyrics	R.Dilenschneider	85
	L1317-2 Cultural Tendencies of Nihon in English	A.J.Lebowitz	86
	L1317-5 Medical Ethics Topics English Discussion	A.J.Lebowitz	87
	L1317-6 Intro to Research Paper Reading	A.J.Lebowitz	88
	L1317-7 Medical History Topics English Discussion	A.J.Lebowitz	89
	L1318 英語音声学入門～正しい発声を学ぼう～	A.J.Lebowitz	90
L132 ドイツ語	L1320-3 はじめてのドイツ語	小 野 純 一	91
	L1320-4 ドイツ語初級	小 野 純 一	92
L133 中国語	L1331 中国語概論	阿 部 博 幸	93
L135 フランス語	L1350-3 はじめてのフランス語	吹 田 映 子	94
	L1350-5 フランス語初級Ⅰ	吹 田 映 子	95
	L1350-6 フランス語初級Ⅱ	吹 田 映 子	96
	L1350-7 フランス語文法Ⅰ	吹 田 映 子	97
	L1350-8 フランス語文法Ⅱ	吹 田 映 子	98

2. 総合教育科目の教育目標

総合教育の目標は、さまざまな学問分野に触れて、自己と社会について多様な視点および接点を獲得し、心と体と知性の全てにわたって調和のとれた個性あふれる自己形成を行うことにある。学生は一人一人の関心と個性とに応じて、主体性を持って選択科目を構成し、自己教育さらには生涯教育への第一歩を歩み出すことが期待される。

3. 総合教育選択科目履修要領

1) 科目構成

総合教育選択科目は、人文社会系、自然系、外国語系の三つの系に分類され、100前後の科目が開講される。

2) 選択科目の履修単位

総合教育選択科目は10単位以上履修しなければならない。選択科目はすべて1単位である。開講予定の科目は100前後あるが、その中から1年次に11単位履修する。開講されている科目の数に比べて履修しなければならない単位数が少ないので、選択の自由度が高いのが総合教育選択科目の特徴である。

3) 科目選択の多様性を目指すこと

総合教育選択科目には人文社会系、自然系、外国語系の三つの系がある。それぞれの系から多様性のある選択をし、自己学習あるいは生涯学習の第一歩を踏み出すにふさわしい内容とすることが望ましい。科目には科目番号が付いている。科目番号の後に付いているA、B、C、などのアルファベットはその番号の科目が2回以上開講されていることを示すためであり、別の科目を意味するものではない。同じ科目番号の科目を間違えて複数履修しないこと。

4) 受講人数の制限

授業内容の性質などの事情により、科目ごとに定員が決められている。定員の詳細は各系別の科目一覧あるいは各科目の要項にある。定員を超えた場合でも、なるべく希望に添えるよう配慮するが、やむを得ない場合には、抽選で受講者を決める。

5) 選択科目履修登録の仕方

入学前に、インターネットを利用して履修登録を行う。登録方法、締切日等については別途通知する。

6) 履修登録の変更

(1) 1学期に行われる科目については履修登録後の変更は原則として認めない。

(2) 履修科目の抹消は認めない。

(3) 2学期の履修科目の登録変更は、2科目まで受け付ける。ただし変更予定科目がすでに定員に達しているときには、別の科目を選択しなければならない。

(4) 履修登録の変更の受付期間は、掲示にて学事課が指定する。

7) 出席の確認

各科目責任者によって異なるが、原則として毎回の授業の際に出席簿に署名し、担当教員が捺印することによって出席が確認される。

8) 成績評価ならびに再試験・再履修について

(1) 原則として講義は授業回数の3分の2を超える（10回中7回以上）出席、演習及び実習は5分の4を超える（10回中9回以上）出席をした者を、受験資格（評価を受ける資格）を有する者とする。

(2) 単位取得資格を有する学生に対して、試験、レポート、平常点（日常テスト、態度評価、

出席点等を含む)のいずれかもしくは二つ以上を組み合わせで成績評価を行なう。詳細は各科目の当該欄を参照願いたい。

- (3) 評価が60点に達せず、不合格になった場合は、原則として試験期間終了後、2週間以内に、各科目責任者の指導のもと、再試験、レポート再提出、その他の方法によって、再評価を受ける。この期間内に合格点が得られない場合、もしくは評価が完了しない場合、その科目の単位は修得できない。
- (4) 1学年終了時まで選択科目10単位以上を取得することが、2学年への進級要件である。

※ 上記の履修登録方法については、変更されることもあるので掲示等に注意すること。

4. 令和5年度 総合教育選択科目 開講日

	1 学期	2 学期
火曜日	3 時限／ A	1 時限／ F 2 時限／ G
	2023年 4月18日(火) 4月25日(火) 5月 9日(火) 5月16日(火) 5月23日(火) 5月30日(火) 6月 6日(火) 6月13日(火) 6月20日(火) 6月27日(火)	2023年 9月 5日(火) 9月12日(火) 9月19日(火) 9月26日(火) 10月 3日(火) 10月10日(火) 10月17日(火) 10月24日(火) 10月31日(火) 11月 7日(火)
水曜日	1 時限／ B 5 時限／ C	1 時限／ H 3 時限／ I
	2023年 4月12日(水) 4月19日(水) 4月26日(水) 5月10日(水) 5月17日(水) 5月24日(水) 6月 7日(水) 6月14日(水) 6月21日(水) 6月28日(水)	2023年 9月 6日(水) 9月13日(水) 9月20日(水) 9月27日(水) 10月 4日(水) 10月11日(水) 10月18日(水) 10月25日(水) 11月 1日(水) 11月 8日(水)
木曜日	2 時限／ D 3 時限／ E	1 時限／ J 2 時限／ K
	2023年 4月13日(木) 4月20日(木) 4月27日(木) 5月11日(木) 5月18日(木) 5月25日(木) 6月 8日(木) 6月15日(木) 6月22日(木) 6月29日(木)	2023年 9月 7日(木) 9月14日(木) 9月21日(木) 9月28日(木) 10月12日(木) 10月19日(木) 10月26日(木) 11月 2日(木) 11月 9日(木) 11月16日(木)

令和5年度 総合教育選択科目 開講予定時間割

1 学年 1 学期

	月	火	水	木	金
1 時限			総合教育 B		
2 時限				総合教育 D	
3 時限		総合教育 A		総合教育 E	
4 時限					
5 時限			総合教育 C		

1 学年 2 学期

	月	火	水	木	金
1 時限		総合教育 F	総合教育 H	総合教育 J	
2 時限		総合教育 G		総合教育 K	
3 時限			総合教育 I		
4 時限					
5 時限					

5. 令和5年度総合教育選択科目時間割

1 学 期

開講曜日	火 曜 日
3 時 限 A	人文社会系
	L1111-5A 心と体の哲学 (中山)
	L1111-6 ※ 西洋音楽史 I (加藤)
	L1118-5A 生と死の生命倫理 (渡部)
	L1122-3A 対人交流の臨床心理学 (佐々木)
	L1135A 文学的探索 (鈴木)
	L1140-1 ※ 医学古典語 I (小野)
	L1151A 社会を診る方法 (青山)
	L1154A 異文化理解入門 (渥美)
	L1158-5 ソーシャルデザイン論 (山邊)
自然系	L1210 医学・医療における数学 (奥田)
	L1254-1A ※ 体育学演習 1 (板井)
	L1262-1 医療における「学習」と「教育」(浅田)
外国語系	L1315-7 World Countries and Culture I (Dilenschneider)
	L1317-2A Cultural Tendencies of Nihon in English 英語で日本文化 (Lebowitz)
	L1350-5 ※ フランス語初級 I (吹田)

開講曜日	水 曜 日	木 曜 日
1 時 限 B	人文社会系	2 時 限 D
	L1118-8A 医療倫理入門 (渡部)	L1111-7 ※ 西洋音楽史 II (加藤)
	L1119-1A はじめての哲学 (小野)	L1113-7A アートセラピー入門 (吹田)
	L1154B 異文化理解入門 (渥美)	L1118-8B 医療倫理入門 (渡部)
	L1216A ゲノム医療がもたらすもの (奥田)	L1119-3 言語文化入門 I (アラビア) (小野)
	L1242-3 ※ 「形」から学ぶヒトの生物学 1 (菊地)	L1124A 心と体の心理支援法 (佐々木)
	L1270A 医薬品研究の歴史 (奥水)	L1153A 医療人類学 (田中)
	L1316-14 Reading Concepts: Society & Wellness (Dilenschneider)	L1155A 社会学概論 (渥美)
	L1317-7A Medical History Topics English Discussion 医学史英語ディスカッション (Lebowitz)	L1254-2A 体育学演習 2 (板井)
	L1320-3 はじめてのドイツ語 (中山)	L1316-7 Critical Thinking (Dilenschneider)
5 時 限 C	外国語系	L1317-5A Medical Ethics Topics English Discussion 臨床倫理英語ディスカッション (Lebowitz)
	L1350-3A はじめてのフランス語 (吹田)	L1318A 英語音声学入門～正しい発声を学ぼう～ (清水)
	人文社会系	3 時 限 E
	L1113-6A 西洋美術史 (吹田)	L1113-7B アートセラピー入門 (吹田)
	L1118-6A 英語で読む生命倫理 (渡部)	L1114-4 仏教思想史 I (小野)
	L1118-9 国家とは何か (加藤)	L1115-1 キリスト教思想史 I (加藤)
	L1119-2 哲学の入門 (小野)	L1118-7A 技術・社会・倫理 (渡部)
	L1150 高齢社会論 (青山)	L1124B 心と体の心理支援法 (佐々木)
	L1154C 異文化理解入門 (田中)	L1153B 医療人類学 (田中)
	自然系	L1158-2 科学と社会 (法学入門) (山邊)
外国語系	L1215A 臨床医学と数学 (奥田)	L1242-4 ※ 「形」から学ぶヒトの生物学 2 (菊地)
	L1270B 医薬品研究の歴史 (奥水)	L1254-2B 体育学演習 2 (板井)
	L1317-6A Intro to Research Paper Reading 論文読入門 (Lebowitz)	L1350-7 ※ フランス語文法 I (鈴木)
	L1331 中国語概論 (阿部)	

科目番号の A、B 等の記号はその科目が他の時間にも開講されていることを示す。

※がついている科目は、履修条件が設定されているため、各科目の紹介ページをよく読むこと。

2 学 期

開講曜日		火 曜 日	
1 時 限 F	人文社会系	L1118-8C	医療倫理入門（渡部）
		L1123-2A	自己理解の心理アセスメント（佐々木）
		L1154D	異文化理解入門（渥美）
		L1157	医療と民俗学（立石）
	自 然 系	L1216B	ゲノム医療がもたらすもの（奥田）
		L1254-1B ※	体育学演習 1（板井）
		L1262-2A	ICT 時代の情報活用力（浅田）
	外国語系	L1315-8	World Countries and Culture II (Dilenschneider)
		L1317-7B	Medical History Topics English Discussion 医学史英語ディスカッション (Lebowitz)
		L1320-4 ※	ドイツ語初級（中山）
		L1350-6 ※	フランス語初級Ⅱ（吹田）
2 時 限 G	人文社会系	L1111-5B	心と体の哲学（中山）
		L1111-8 ※	西洋音楽史Ⅲ（加藤）
		L1118-6B	英語で読む生命倫理（渡部）
		L1123-2B	自己理解の心理アセスメント（佐々木）
		L1135B	文学的探索（鈴木）
		L1154E	異文化理解入門（渥美）
		L1158-3	国際社会論（山邊）
	自 然 系	L1217	パソコン・IT（インターネット）で学ぶゲノム医療（奥田）
		L1220-5	疾病関連タンパク質概論（山本）
		L1241	発生物学入門（佐藤滋）
		L1243A	生物多様性を考える（菊地）
		L1254-1C ※	体育学演習 1（板井）
		L1262-2B	ICT 時代の情報活用力（浅田）
	外国語系	L1316-15	Music and Lyrics (Dilenschneider)
		L1317-2B	Cultural Tendencies of Nihon in English 英語で日本文化 (Lebowitz)
		L1350-3B	はじめてのフランス語（吹田）

開講曜日		水 曜 日		木 曜 日		
1 時 限 H	人文社会系	L1113-1 L1118-5B L1119-1B L1122-3B L1154F	医学・医療と芸術（吹田） 生と死の生命倫理（渡部） はじめての哲学（小野） 対人交流の臨床心理学（佐々木） 異文化理解入門（渥美）	1 時 限 J	L1114-5 L1118-8D L1122-4A L1134 L1151B L1155B L1254-2C	仏教思想史Ⅱ（小野） 医療倫理入門（渡部） 母子関係論と人格発達（佐々木） 文学への誘い（吹田） 社会を診る方法（青山） 社会学概論（渥美） 体育学演習 2（板井）
	自 然 系	L1212 L1245 L1254-3	基礎数理遺伝学演習（奥田） 系統発生学入門（菊地） 体育学演習 3（板井）			
	外国語系	L1317-6B	Intro to Research Paper Reading 論文読入門(Lebowitz)			L1316-13 L1317-5B
3 時 限 I	人文社会系	L1113-6B L1115-2 ※ L1118-7B L1122-3C L1140-2 ※ L1156	西洋美術史（吹田） ※ キリスト教思想史Ⅱ（加藤） 技術・社会・倫理（渡部） 対人交流の臨床心理学（佐々木） ※ 医学古典語Ⅱ（小野） 文化人類学概論（田中）	2 時 限 K	L1111-9 L1118-6C L1119-4 ※ L1122-4B L1153C L1158-1	※ 西洋音楽史Ⅳ（加藤） 英語で読む生命倫理（渡部） ※ 言語文化入門Ⅱ（アラビア）（小野） 母子関係論と人格発達（佐々木） 医療人類学（田中） メディアと社会（山邊）
	自 然 系	L1215B L1243B L1254-4	臨床医学と数学（奥田） 生物多様性を考える（菊地） 体育学演習 4（板井）		L1220-4 L1254-2D L1263	光科学の医学・生命科学への応用（佐藤文） 体育学演習 2（板井） 医療安全のための理論と実践（前田）
	外国語系				L1316-11 L1318B L1350-8 ※	English Essay Writing(Dilenschneider) 英語音声学入門～正しい発声を学ぼう～（清水） ※ フランス語文法Ⅱ（鈴木）

科目番号の A、B 等の記号はその科目が他の時間にも開講されていることを示す。

※がついている科目は、履修条件が設定されているため、各科目の紹介ページをよく読むこと。

〔L11〕 人文社会系科目

人文社会系科目一覧

科目番号／授業科目	責任者	学期／曜／時限	授業形態	単 位	定 員	評 価
L1111-5 心と体の哲学	小 野	A・I・火・3 B・II・火・2	講義	1	20	態度・課題
L1111-6 西洋音楽史Ⅰ	吹 田	I・火・3	講義	1	15	出席・レポート・態度
L1111-7 西洋音楽史Ⅱ	吹 田	I・木・2	講義	1	15	出席・レポート・態度
L1111-8 西洋音楽史Ⅲ	吹 田	II・火・2	講義	1	15	出席・レポート・態度
L1111-9 西洋音楽史Ⅳ	吹 田	II・木・2	講義	1	15	出席・レポート・態度
L1113-1 医学・医療と芸術	吹 田	II・水・1	講義	1	30	出席・レポート 他
L1113-6 西洋美術史	吹 田	A・I・水・5 B・II・水・3	講義	1	30	出席・レポート 他
L1113-7 アートセラピー入門	吹 田	A・I・木・2 B・I・木・3	講義・演習	1	15	出席・態度 他
L1114-4 仏教思想史Ⅰ	小 野	I・木・3	講義	1	10	レポート
L1114-5 仏教思想史Ⅱ	小 野	II・木・1	講義	1	10	レポート
L1115-1 キリスト教思想史Ⅰ	小 野	I・木・3	演習	1	20	レポート・態度
L1115-2 キリスト教思想史Ⅱ	小 野	II・水・3	演習	1	12	レポート・態度
L1118-5 生と死の生命倫理	渡 部	A・I・火・3 B・II・水・1	講義	1	30	出席・レポート
L1118-6 英語で読む生命倫理	渡 部	A・I・水・5 B・II・火・2 C・II・木・2	講義・演習	1	30	出席・小テスト
L1118-7 技術・社会・倫理	渡 部	A・I・木・3 B・II・水・3	講義	1	30	出席・レポート
L1118-8 医療倫理入門	渡 部	A・I・水・1 B・I・木・2 C・II・火・1 D・II・木・1	講義・演習	1	30	出席・レポート
L1118-9 国家とは何か	小 野	I・水・5	講義・演習・実習	1	20	出席・レポート 他
L1119-1 はじめての哲学	小 野	A・I・水・1 B・II・水・1	講義	1	10	レポート 他
L1119-2 哲学の入門	小 野	I・水・5	講義	1	20	態度・課題
L1119-3 言語文化入門Ⅰ(アラビア)	小 野	I・木・2	演習	1	10	出席・態度・課題
L1119-4 言語文化入門Ⅱ(アラビア)	小 野	II・木・2	演習	1	10	出席・態度・課題
L1122-3 対人交流の臨床心理学	佐々木	A・I・火・3 B・II・水・1 C・II・水・3	講義・実習	1	20	課題・レポート 他
L1122-4 母子関係論と人格発達	佐々木	A・II・木・1 B・II・木・2	講義	1	30	態度・レポート 他
L1123-2 自己理解の心理アセスメント	佐々木	A・II・火・1 B・II・火・2	講義・実習	1	20	態度・レポート
L1124 心と体の心理支援法	佐々木	A・I・木・2 B・I・木・3	講義・実習	1	15	出席・態度 他
L1134 文学への誘い	吹 田	II・木・1	講義	1	20	出席・レポート 他
L1135 文学的探索	吹 田	A・I・火・3 B・II・火・2	講義・演習	1	10	出席・レポート
L1140-1 医学古典語Ⅰ	小 野	I・火・3	講義	1	30	小テスト
L1140-2 医学古典語Ⅱ	小 野	II・水・3	講義	1	30	小テスト
L1150 高齢社会論	青 山	I・水・5	講義	1	30	レポート・態度 他
L1151 社会を診る方法	青 山	A・I・火・3 B・II・木・1	講義	1	30	課題・態度
L1153 医療人類学	田 中	A・I・木・2 B・I・木・3 C・II・木・2	講義・演習	1	20	出席・レポート 他
L1154 異文化理解入門	田 中	A・I・火・3 B・I・水・1 C・I・水・5 D・II・火・1 E・II・火・2 F・II・水・1	講義・演習	1	10	平常点・試験 他
L1155 社会学概論	田 中	A・I・木・2 B・II・木・1	講義・演習	1	10	平常点・試験 他
L1156 文化人類学概論	田 中	II・水・3	講義・演習	1	20	平常点・レポート 他
L1157 医療と民俗学	菊 地	II・火・1	講義	1	20	出席・レポート・態度
L1158-1 メディアと社会	山 邊	II・木・2	講義・演習	1	30	課題 他
L1158-2 科学と社会(法学入門)	山 邊	I・木・3	講義・演習	1	30	課題 他
L1158-3 国際社会論	山 邊	II・火・2	講義・演習	1	30	課題 他
L1158-5 ソーシャルデザイン論	山 邊	I・火・3	講義・演習	1	30	課題 他

科目番号	科目名	責任者	学年
L1111-5	心と体の哲学	小野純一	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [A]
[2] 学期 [火・2] 時限 [G]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

この講義では心と体の関係性を哲学的に考えるとは、どのような思考なのか理解することを目的とします。具体的には、現代哲学の根幹をなす古典哲学からライプニッツ、フッサールの創始した現象学を彼らのテキストを例示しながら、重要な箇所を講読し、日本の哲学者たちによる受容を紹介し、補足説明を加えます。その上で、文学、舞台作品、映画、あるいは私たちの日常経験などから具体例を紹介し、具体的にイメージを働かせながら考えます。同時に、哲学的な思考を批判的に学ぶことで、心と体の関係を再考し、哲学の思考法を理解することを目指します。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

配布資料

○参考書

新田義弘『現象学』講談社、2013年

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	導入 哲学的な思考とは何か	中山純一	哲学
2	哲学の原型1——ロゴスとアイデア	中山純一	哲学
3	哲学の原型2——創造と時間	中山純一	哲学
4	哲学の原型3——法則、経験、自己	中山純一	哲学
5	「もの」と「ところ」——一元論、二元論、多元論	中山純一	哲学
6	「理性」と「他者」——同一性と差異性	中山純一	哲学
7	「人間」と「世界」——志向性、地平、出来事	中山純一	哲学
8	「言葉」と「解釈」——「われわれ」からの出発	中山純一	哲学
9	「生命」「身体」「自然」	中山純一	哲学
10	まとめ・最終課題	中山純一	哲学

○評価の方法

授業での取り組み（40%）、最終課題（60%）

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

レポートの結果について、講評を示し、校正、指導します。

○準備学修（予習・復習）

予習として、学習予定のテキスト内容をあらかじめ読み、意味の不明な哲学の概念を辞書等で調べ、疑問点を記入し、ノートに整理してきてください。（90分）

復習として、授業中に板書された内容をノートに体系的に整理し、疑問点などをコメントとして記入してください。また、テキストを再度読み返してください。（90分）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1111-6	西洋音楽史Ⅰ	吹田 映子	1 学年

○開講時期 〔1〕学期〔火・3〕時限〔A〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔15〕名

○ねらい

本科目はバロック後期から古典派を経て、ロマン派中期に至る西洋音楽の歴史を扱う。1コマにつき、原則として1名の作曲家を取り上げ、その生涯と作品、活動の背景となる当時の社会とその思想的背景、キリスト教信仰ならびに教会との関係などについて解説する。また代表的な作品については、作曲の経緯や技法など鑑賞に資すると思われる事柄についても解説する。鑑賞する作品については、一曲ごとに感想を書いていた。さしあたり言葉にはならない印象や感動、連想される風景や作曲者の思いなどを、他者の思いをくみ取りつつ、自分の言葉で表現してみることによって、自分自身を発見することもこの授業の大切なねらいとなる。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

資料配付

○参考書

なし

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	バッハ1	加藤 直克	外来講師
2	ヘンデル	加藤 直克	外来講師
3	モーツァルト1	加藤 直克	外来講師
4	ベートーヴェン1	加藤 直克	外来講師
5	シューベルト	加藤 直克	外来講師
6	メンデルスゾーン	加藤 直克	外来講師
7	ショパン	加藤 直克	外来講師
8	ワーグナー	加藤 直克	外来講師
9	ブラームス	加藤 直克	外来講師
10	ブルックナー	加藤 直克	外来講師

○評価の方法

レポート提出、出席ならびに授業への参加態度。

○履修上の注意

希望者が履修定員を超える場合には、西洋音楽史Ⅱを併せて受講したい人を優先します。授業が始まってから20分以内は遅刻扱い（半出席）、それ以降は欠席扱いとします。

○フィードバックの方法

レポートにコメントを返す

○準備学修（予習・復習）

前回の講義内容を読み返す（3時間）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1111-7	西洋音楽史Ⅱ	吹田 映子	1 学年

○開講時期 〔1〕学期〔木・2〕時限〔D〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔15〕名

○ねらい

本科目はバロック後期から古典派を経て、ロマン派中期に至る西洋音楽の歴史を扱う。1コマにつき、原則として1名の作曲家を取り上げ、その生涯と作品、活動の背景となる当時の社会とその思想的背景、キリスト教信仰ならびに教会との関係などについて解説する。また代表的な作品については、作曲の経緯や技法など鑑賞に資すると思われる事柄についても解説する。鑑賞する作品については、一曲ごとに感想を書いていた。さしあたり言葉にはならない印象や感動、連想される風景や作曲者の思いなどを、自分の言葉で表現してみることによって、他者の思いをくみ取りつつ、自分自身を発見することもこの授業の大切なねらいとなる。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

資料配付

○参考書

なし

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	ヴィヴァルディ	加藤 直 克	外 来 講 師
2	バッハ2	加藤 直 克	外 来 講 師
3	ハイドン	加藤 直 克	外 来 講 師
4	モーツァルト2	加藤 直 克	外 来 講 師
5	ベートーヴェン2	加藤 直 克	外 来 講 師
6	ベルリオーズ	加藤 直 克	外 来 講 師
7	シューマン	加藤 直 克	外 来 講 師
8	リスト	加藤 直 克	外 来 講 師
9	ヴェルディ	加藤 直 克	外 来 講 師
10	チャイコフスキー	加藤 直 克	外 来 講 師

○評価の方法

レポート提出、出席ならびに授業への参加態度。

○履修上の注意

希望者が履修定員を超える場合には、西洋音楽史Ⅰを併せて受講したい人を優先します。授業が始まってから20分以内は遅刻扱い（半出席）、それ以降は欠席扱いとします。

○フィードバックの方法

レポートにコメントを返す

○準備学修（予習・復習）

前回の講義内容を読み返す（3時間）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1111-8	西洋音楽史Ⅲ	吹田 映子	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [火・2] 時限 [G]

○授業形式 講義

○履修定員 [15] 名

○ねらい

本科目は19世紀半ば、ロマン派後期から20世紀前半に掛けての西洋音楽の歴史を扱う。1コマにつき、原則として1名の作曲家を取り上げ、その生涯と作品、活動の背景となる当時の社会とその思想的背景、キリスト教信仰ならびに教会との関係などについて解説する。また代表的な作品については、作曲の経緯や技法など鑑賞に資すると思われる事柄についても解説する。鑑賞する作品については、一曲ごとに感想を書いていた。さしあたり言葉にはならない印象や感動、連想される風景や作曲者の思いなどを、他者の思いをくみ取りつつ、自分の言葉で表現してみることによって、自分自身を発見することもこの授業の大切なねらいとなる。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

資料配付

○参考書

なし

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	ドヴォルザーク	加藤 直 克	外 来 講 師
2	ビゼー	加藤 直 克	外 来 講 師
3	フォーレ	加藤 直 克	外 来 講 師
4	プッチーニ	加藤 直 克	外 来 講 師
5	ドビュッシー	加藤 直 克	外 来 講 師
6	ラフマニノフ	加藤 直 克	外 来 講 師
7	バルトーク	加藤 直 克	外 来 講 師
8	ストラヴィンスキー	加藤 直 克	外 来 講 師
9	ハチャトリアン	加藤 直 克	外 来 講 師
10	シェーンベルク	加藤 直 克	外 来 講 師

○評価の方法

レポート提出、出席ならびに授業への参加態度。

○履修上の注意

受講希望者が定員を超える場合は、西洋音楽史Ⅳを併せて受講したい人を優先します。授業が始まってから20分以内は遅刻扱い（半欠席）、それ以降は欠席扱いとします。

○フィードバックの方法

レポートにコメントを返す

○準備学修（予習・復習）

前回の講義内容を読み返す（3時間）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1111-9	西洋音楽史Ⅳ	吹田 映子	1 学年

○開講時期 〔2〕学期〔木・2〕時限〔K〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔15〕名

○ねらい

本科目は19世紀半ば、ロマン派後期から20世紀前半に掛けての西洋音楽の歴史を扱う。1コマにつき、原則として1名の作曲家を取り上げ、その生涯と作品、活動の背景となる当時の社会とその思想的背景、キリスト教信仰ならびに教会との関係などについて解説する。また代表的な作品については、作曲の経緯や技法など鑑賞に資すると思われる事柄についても解説する。鑑賞する作品については、一曲ごとに感想を書き添えていただく。さしあたり言葉にはならない印象や感動、連想される風景や作曲者の思いなどを、他者の思いをくみ取りつつ、自分の言葉で表現してみることによって、自分自身を発見することもこの授業の大切なねらいとなる。西洋音楽史ⅣではⅢで扱わなかった同時代の作曲家を扱う。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

資料配付

○参考書

なし

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	グリーグ	加藤 直 克	外 来 講 師
2	エルガー	加藤 直 克	外 来 講 師
3	マーラー	加藤 直 克	外 来 講 師
4	シベリウス	加藤 直 克	外 来 講 師
5	ラベル	加藤 直 克	外 来 講 師
6	ロシア国民楽派	加藤 直 克	外 来 講 師
7	リヒャルト・シュトラウス	加藤 直 克	外 来 講 師
8	プロコフィエフ	加藤 直 克	外 来 講 師
9	ガーシュイン	加藤 直 克	外 来 講 師
10	ショスタコーヴィチ	加藤 直 克	外 来 講 師

○評価の方法

レポート提出、出席ならびに授業への参加態度。

○履修上の注意

受講希望者が定員を超える場合は、西洋音楽史Ⅲを併せて受講したい人を優先します。授業が始まってから20分以内は遅刻扱い（半欠席）、それ以降は欠席扱いとします。

○フィードバックの方法

レポートにコメントを返す

○準備学修（予習・復習）

前回の講義内容を読み返す（3時間）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1113-1	医学・医療と芸術	吹田 映子	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [水・1] 時限 [H]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

医学「と」芸術、医療「と」芸術。一見かけ離れた分野のあいだには、どのような関係があるのでしょうか。近代の合理主義を通じて別物と認識されるようになったこれら人間の営為は、実際にはいつの時代・どの地域においても分かちがたい関係を結んでいるように思われます。この授業では、ルネサンス期イタリアの絵画における医学的関心を足がかりに、西洋美術史と西洋医学史の接点に分け入ります。舞台は15世紀のイタリアから17世紀のオランダへ。その後は18世紀の日本へと移ります（日蘭医学交流）。本講義を通じて芸術一般および医学史への関心を高めるとともに、医学・医療を文化として、より広い視野で捉える姿勢を身につけましょう。また、医師としての将来の自己像を広い歴史のなかに位置づけることもできるでしょう。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-1 医師になるための自覚

○教科書

資料を配布します。

○参考書

岡田温司・池上英洋『レオナルド・ダ・ヴィンチと受胎告知』平凡社

立川昭二『歴史紀行 死の風景』朝日選書

『医は仁術』展覧会公式ガイドブック

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	イタリア・ルネサンスにおける受胎告知図の流行と医学（1）	吹田 映子	文学部
2	イタリア・ルネサンスにおける受胎告知図の流行と医学（2）	吹田 映子	文学部
3	ダ・ヴィンチ《モナ・リザ》の謎	吹田 映子	文学部
4	ダ・ヴィンチの解剖デッサン	吹田 映子	文学部
5	解剖学とオルガン	吹田 映子	文学部
6	ボス《石の切除手術》（15世紀末）から考える医学の制度化	吹田 映子	文学部
7	レンブラントの絵画に見る17世紀オランダの市民社会と医学（1）	吹田 映子	文学部
8	レンブラントの絵画に見る17世紀オランダの市民社会と医学（2）	吹田 映子	文学部
9	杉田玄白『蘭学事始』を読む（1）	吹田 映子	文学部
10	杉田玄白『蘭学事始』を読む（2）	吹田 映子	文学部

○評価の方法

出席、発言、小レポート

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

レポートにコメントを返す

○準備学修（予習・復習）

前回までの資料を読み返す（3時間）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1113-6	西洋美術史	吹田 映子	1 学年

- 開講時期 〔1〕 学期〔水・5〕 時限〔C〕
 〔2〕 学期〔水・3〕 時限〔I〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔30〕 名

○ねらい

図画工作や美術の授業を通して作る楽しみは経験したものの、美術作品を鑑賞する楽しみについては今一つわからない、という人はいませんか。旧石器時代の洞窟壁画から現代の幅広い「アート」まで、造形作品は歴史的な資料でもあります。学問としての美術史は、その作品がいつ、どこで、誰が、何のために制作したのかを問題にします。いわば一つのナゾとして作品と対峙するのです。美術のジャンルには彫刻や版画など様々ありますが、例えば絵画では、描かれた人物の服装や、背景にある建築物など、見過ごしがちな細部に着目することでナゾを解く鍵を得られることがよくあります。この授業では西洋絵画史において特に謎めいた作品を紹介しますから、頭を捻りながら美術史を学びましょう。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

資料を配布します。

○参考書

授業中に紹介します。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	好きな絵（1）	吹 田 映 子	文 学
2	好きな絵（2）	吹 田 映 子	文 学
3	ナゾの絵 I	吹 田 映 子	文 学
4	15世紀前半 フランドル 北方ルネサンス	吹 田 映 子	文 学
5	ナゾの絵 II	吹 田 映 子	文 学
6	17世紀 スペイン バロック	吹 田 映 子	文 学
7	ナゾの絵 III	吹 田 映 子	文 学
8	15世紀後半 イタリア ルネサンス	吹 田 映 子	文 学
9	ナゾの絵 IV	吹 田 映 子	文 学
10	20世紀 ベルギー シュルレアリスム	吹 田 映 子	文 学

○評価の方法

出席、発言、小レポート

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

レポートにコメントを返す

○準備学修（予習・復習）

前回までの資料を読み返す（3時間）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1113-7	アートセラピー入門	吹田 映子	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [D]
[1] 学期 [木・3] 時限 [E]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [15] 名

○ねらい

医療を広く「癒し」という視点で捉えるなら、そこには様々な営みが含まれます。なかでも芸術はアートセラピー（芸術療法）という実践においてその効果が注目されています。この傾向は20世紀後半に現われ、その重要性は現代社会においてますます高まっているようです。デジタル化やコロナ禍に伴い、私たちが自らの、そして他者の身体と向き合う機会を急速に失いつつあるとすれば、他者との関わりの中で心身の解放を目指すアートセラピーの役割は、かつてなく大きいと言えるかもしれません。この授業ではアートセラピーに携わっている方々から具体的なお話を伺い、体験を通してその意義について考えます。取り上げる芸術分野は音楽、描画、コラージュ、ダンス、演劇です。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

なし

○参考書

『アート×セラピー潮流』（フィルムアート社）

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	導入	吹田 映子	文 学
2	音楽療法（1）	吹田 映子 （および外来講師）	文 学
3	音楽療法（2）	吹田 映子 （および外来講師）	文 学
4	描画療法	吹田 映子 （および外来講師）	文 学
5	コラージュ療法	吹田 映子 （および外来講師）	文 学
6	ダンス・セラピーの試み（1）	吹田 映子 （および外来講師）	文 学
7	演劇情動療法（1）	吹田 映子 （および外来講師）	文 学
8	演劇情動療法（2）	吹田 映子 （および外来講師）	文 学
9	ダンス・セラピーの試み（2）	吹田 映子 （および外来講師）	文 学
10	振り返り	吹田 映子	文 学

○評価の方法

出席、参加態度、意見の記述内容

○履修上の注意

「心と体の心理支援法」の授業と一部合同で実施します。

○フィードバックの方法

レポートにコメントを返す

○準備学修（予習・復習）

前回までの内容を想起する（1時間）、今回の内容を想像しながら心身をリラックスさせる（2時間）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1114-4	仏教思想史Ⅰ	小野純一	1 学年

○開講時期 〔1〕学期〔木・3〕時限〔E〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔10〕名

○ねらい

仏教思想史は、古代インドにおけるヴェーダを中心とするバラモン教の成立の状況を解説する。さらに前6世紀以後ガンジス川流域を中心とする都市部の発展により、バラモン教に飽き足らないさまざまな人々の中から、ゴータマ・シッダルタが現れ、その出家に至るまでの歩みをたどる。彼らの共通の課題である業と輪廻の桎梏からいかにして解脱するかという関心から、仏陀の悟りの意味するものを追求する。その悟りを仏陀が他者に伝えようとしたことから、修行者の集団である僧伽の成立した。仏陀の入滅後、教えが集められ(仏典結集) 仏教の根本の教えが成立した。しかし教説の解釈をめぐる教団は分裂し、やがて南伝仏教と大乘仏教に別れていく。講義では大乘仏教のエッセンスを説いた『般若心経』を取り上げ、内容を解説する。最後に日本人の宗教意識と仏教との関係について検討する。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-1 プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-2 他者への理解

○教科書

資料配付

○参考書

末本文美士『日本思想史』(岩波新書)

末本文美士『日本仏教史—思想史としてのアプローチ』(新潮文庫)

竹村牧男『入門 哲学としての仏教』(講談社現代新書)

竹村牧男『インド仏教の歴史』(講談社学術文庫)

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	ヴェーダとウパニシャッド	小野純一	哲学
2	輪廻と業(1) 六道輪廻、地獄の思想	小野純一	哲学
3	輪廻と業(2) 因果応報、三界唯識	小野純一	哲学
4	釈迦の生涯と成道	小野純一	哲学
5	仏典結集と僧伽の成立	小野純一	哲学
6	四諦、十二因縁、八正道、中道、	小野純一	哲学
7	上座部と大衆部、大乘仏教の成立	小野純一	哲学
8	『般若心経』解説、観世音菩薩	小野純一	哲学
9	日本人と仏教(1)	小野純一	哲学
10	日本人と仏教(2)	小野純一	哲学

○評価の方法

レポート提出による。

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修(予習・復習)

配布資料を読み、指示されたテキストの読解を深める(予習90分、復習90分)

科目番号	科目名	責任者	学年
L1114-5	仏教思想史Ⅱ	小野純一	1 学年

○開講時期 〔2〕学期〔木・1〕時限〔J〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔10〕名

○ねらい

仏教思想史は、古代インドにおけるヴェーダを中心とするバラモン教の成立の状況を解説する。さらに前6世紀以後ガンジス川流域を中心とする都市部の発展により、バラモン教に飽き足らないさまざまな人々の中から、ゴータマ・シッダルタが現れ、その出家に至るまでの歩みをたどる。彼らの共通の課題である業と輪廻の桎梏からいかにして解脱するかという関心から、仏陀の悟りの意味するものを追求する。その悟りを仏陀が他者に伝えようとしたことから、修行者の集団である僧伽の成立した。仏陀の入滅後、教えが集められ(仏典結集) 仏教の根本の教えが成立した。しかし教説の解釈をめぐる教団は分裂し、やがて南伝仏教と大乘仏教に別れていく。講義では大乘仏教のエッセンスを説いた『般若心経』を取り上げ、内容を解説する。最後に日本人の宗教意識と仏教との関係について検討する。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-2 他者への理解

○教科書

配布資料

○参考書

末本文美士『日本思想史』(岩波新書)

末本文美士『日本仏教史—思想史としてのアプローチ』(新潮文庫)

竹村牧男『入門 哲学としての仏教』(講談社現代新書)

竹村牧男『インド仏教の歴史』(講談社学術文庫)

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	中観の哲学(1)	小野純一	哲学
2	中観の哲学(2)	小野純一	哲学
3	唯識の哲学(1)	小野純一	哲学
4	唯識の哲学(2)	小野純一	哲学
5	華嚴の哲学(1)	小野純一	哲学
6	華嚴の哲学(2)	小野純一	哲学
7	密教の哲学(1)	小野純一	哲学
8	密教の哲学(2)	小野純一	哲学
9	禪の哲学(1)	小野純一	哲学
10	禪の哲学(2)	小野純一	哲学

○評価の方法

毎回のミニレポートと最終レポートによる。

○履修上の注意

特になし。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修(予習・復習)

配布資料を読み、理解を深める(予習90分、復習90分)

科目番号	科目名	責任者	学年
L1115-1	キリスト教思想史Ⅰ	小野 純一	1 学年

○開講時期 〔1〕学期〔木・3〕時限〔E〕

○授業形式 演習

○履修定員 〔20〕名

○ねらい

本科目では、主に旧約聖書の創世記、出エジプト記を中心として、ユダヤ・キリスト教の根底をなす天地創造の神話、ならびに神とイスラエルの民との契約、それに引き続くイスラエル建国までの歴史を見てゆく。これらはギリシャ思想とならんでヨーロッパ思想の根幹をなすものであり、現代の世界を理解する上でも必須の教養といえる。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

『創世記』 関根正雄訳 岩波文庫、『出エジプト記』 関根正雄訳 岩波文庫

○参考書

新共同訳 『新旧約聖書』

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	旧約聖書とはどんな書物か。	加 藤 直 克	外 来 講 師
2	天地創造から楽園追放まで。アダムとイブ	加 藤 直 克	外 来 講 師
3	ノアの洪水とバベルの塔、シュメルの神話	加 藤 直 克	外 来 講 師
4	アブラハムとイサク、神との契約	加 藤 直 克	外 来 講 師
5	イサクとヤコブ、イスラエルという名	加 藤 直 克	外 来 講 師
6	ヨセフの物語	加 藤 直 克	外 来 講 師
7	モーセと出エジプト、十戒	加 藤 直 克	外 来 講 師
8	ヨブ記、神義論	加 藤 直 克	外 来 講 師
9	ダビデのイスラエル建国	加 藤 直 克	外 来 講 師
10	王国の分裂、北イスラエルと南ユダの滅亡、バビロン捕囚	加 藤 直 克	外 来 講 師

○評価の方法

レポート提出
授業参加の態度

○履修上の注意

授業内で伝える

○フィードバックの方法

毎回の感想レポートを提出し、その感想や疑問に対して、毎回コメントを書いて返却する。

○準備学修（予習・復習）

毎回の授業の準備学習としては、前回の講義内容を読み返す（予習90分、復習90分）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1115-2	キリスト教思想史Ⅱ	小野 純一	1 学年

○開講時期 〔2〕学期〔水・3〕時限〔1〕

○授業形式 演習

○履修定員 〔12〕名

○ねらい

キリスト教思想史Ⅱでは、遠藤周作の『イエスの生涯』と『キリスト教の誕生』という二つの小説を手がかりに、イエスとその弟子たちの言葉や行いについて理解を深める。同時にその背景となる当時のユダヤの置かれた状況を俯瞰しつつ、どのようにしてキリスト教がローマ帝国の国教となるに至ったかを理解する。さらには三位一体論、この世の終末までを先取りする歴史意識について理解する。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

遠藤周作『イエスの生涯』同『キリストの誕生』角川文庫

○参考書

関根正雄訳『福音書』岩波文庫、新共同訳『旧新約聖書』、小田垣雅也『キリスト教の歴史』講談社学術文庫

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	エルサレム帰還以後のユダヤ人の歴史	加藤 直 克	外 来 講 師
2	イエスの誕生とその前後	加藤 直 克	外 来 講 師
3	バプテスマのヨハネと荒野の試練、山上の垂訓	加藤 直 克	外 来 講 師
4	イエスの弟子たち、イエスの行いと語り	加藤 直 克	外 来 講 師
5	最後の晩餐、ユダの裏切り、イエスの裁判	加藤 直 克	外 来 講 師
6	イエスの死と復活、昇天と再臨の予言	加藤 直 克	外 来 講 師
7	弟子たちの宣教。ペテロとパウロ	加藤 直 克	外 来 講 師
8	ローマにおけるキリスト教の弾圧と国教化	加藤 直 克	外 来 講 師
9	原始キリスト教と異端	加藤 直 克	外 来 講 師
10	アウグスティヌス、三位一体論、神の国と終末	加藤 直 克	外 来 講 師

○評価の方法

レポートの提出

授業参加の態度

○履修上の注意

教科書は必ず購入して下さい。理解を深めるためにはキリスト教思想史Ⅰを履修していることが望ましい。

○フィードバックの方法

毎回の感想レポートにコメントを書いて返却する。

○準備学修（予習・復習）

教科書と配布資料を読み理解する（予習90分、復習90分）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1118-5	生と死の生命倫理	渡部麻衣子	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [A]
[2] 学期 [水・1] 時限 [H]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

生命倫理学は、私たちは生命をどのように取り扱うべきなのか？という問いに答えようとする学問です。この問いは、1960年代、医療技術が大きく発展し、医療において人々の生命をどのように取り扱えばよいのか、という実践的な問いが生じたことを一つの契機として生じたものです。特に、生命のはじまりと終わりは、医療技術、生物医学の発展によって、大きく変容してきました。そこで、この授業では、「生と死」のあり方を変容してきた技術を事例としながら、生命倫理学における「生と死」に関する議論を学びます。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-6 倫理的行動と社会規範の順守

○教科書

用いない。必要に応じて資料を提示する。

○参考書

必要に応じて資料を提示する。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	イントロダクション	渡部麻衣子	倫理学
2	胎児の超音波画像（1）	渡部麻衣子	倫理学
3	胎児の超音波画像（2）	渡部麻衣子	倫理学
4	マンモグラフィー（1）	渡部麻衣子	倫理学
5	マンモグラフィー（2）	渡部麻衣子	倫理学
6	心電図（1）	渡部麻衣子	倫理学
7	心電図（2）	渡部麻衣子	倫理学
8	人工呼吸器（1）	渡部麻衣子	倫理学
9	人工呼吸器（2）	渡部麻衣子	倫理学
10	まとめ	渡部麻衣子	倫理学

○評価の方法

- 出席点：70点満点
・参加：5点x10回
・400字程度の感想文：2点x10回（各回出席者のみ提出可とする。）
- 1600字程度の最終レポート：30点満点（7回以上出席し十分に参加した場合のみ提出可とする。）
（100-90:A、80-89:B、70-79:C、60-69:D、0-59:E）

○履修上の注意

資料はMoodle上に提示する。
必要な場合は自分で印刷して持参すること。
感想、レポートはMoodle上で提出する。

○フィードバックの方法

感想文には可能な限りコメントをつけて、Moodle上で返信する。最終レポートは返却しない。

○準備学修（予習・復習）

予習：資料に事前に目を通し、感想、質問を1つ以上持って、授業に参加すること。（90分）
復習：授業後、資料やメモを見返しながら、感想を書いて提出すること。（90分）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1118-6	英語で読む生命倫理	渡部麻衣子	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [水・5] 時限 [C]
[2] 学期 [火・2] 時限 [G]
[2] 学期 [木・2] 時限 [K]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [30] 名

○ねらい

この授業では、A Medical Ethics: A Very Short Introduction を教科書として、医療倫理学の基本的考え方を、英語で学びます。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-6 倫理的行動と社会規範の順守

○教科書

A Medical Ethics: A Very Short Introduction

○参考書

なし

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	On why medical ethics is exciting	渡部麻衣子	倫理学
2	Assisted dying: good medical practice, or murder?	渡部麻衣子	倫理学
3	A toolbox for reasoning	渡部麻衣子	倫理学
4	People who don't exist; at least not yet	渡部麻衣子	倫理学
5	Inconsistencies about madness	渡部麻衣子	倫理学
6	Helping the helper	渡部麻衣子	総倫理学
7	Establishing fair procedure	渡部麻衣子	倫理学
8	How modern genetics is testing traditional confidentiality	渡部麻衣子	倫理学
9	Culture, consent, and community	渡部麻衣子	倫理学
10	A glance into the future	渡部麻衣子	倫理学

○評価の方法

1. 出席点：70点

参加：5点x10回

感想：2点x10回（参加した場合のみ提出可とする。）

2. 小テスト：10点x3回（7回以上出席し十分に参加した場合のみ成績に加算する。）

（100-90: A、80-89: B、70-79: C、60-69: D、0-59: E）

○履修上の注意

資料がある場合は、Moodle上で配布するので、必要な場合は各自で印刷すること。

感想はMoodle上で提出する。

○フィードバックの方法

感想の中で特に重要と思われるものには返答をする。小テストは採点し、返却する。

○準備学修（予習・復習）

予習：必ずその週の章を読んでから授業に参加すること。（90分）

復習：新しい単語や言い回しを復習し、テストに備えること。（90分）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1118-7	技術・社会・倫理	渡部麻衣子	1 学年

- 開講時期 〔1〕学期〔木・3〕時限〔E〕
 〔2〕学期〔水・3〕時限〔I〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔30〕名

○ねらい

この授業では、技術の発展と社会がどのように関わっているのか、そしてそこにはどのような倫理的な課題が生じ、それらはどのように実践的に解決されようとしているのか、ということ、いくつかの事例を通して学びます。

取り上げる事例には医療とは異なる分野のものも含まれますが、最終的には、医療技術の発展によって、医療が大きく変容していく社会において「倫理的な医療」を実践するためのセンスを身に着けることが目標です。

授業には4-5名の実践家をお招きし、ご講義いただく予定です。

これまでに招きした方々とお話の内容：

- ・公益財団法人共用品推進機構代表理事：日本におけるユニバーサルデザイン推進事業について
- ・つくば市役所企画イノベーション部部長：医療に関わるスマートシティ政策の実践
- ・日本マイクロソフト社：社会におけるAIの活用
- ・現代美術家：アートを通して生命科学の倫理を考える 他

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

教科書は使わない。

○参考書

『人と「機械」をつなぐデザイン』（佐倉統編、2015）

『共用品という思想：デザインの標準化を目指して』（後藤芳一、星川安之著、2011）

『20xx年の革命家になるには一スベキュラティブデザインの思想』（長谷川愛、2020）

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	イントロダクション	渡部麻衣子	倫理学
2	「技術の道徳化」	渡部麻衣子	倫理学
3	身体と社会	渡部麻衣子	倫理学
4	身体と技術 1	渡部麻衣子 （外部講師 調整中）	倫理学
5	身体と技術 2	渡部麻衣子 （外部講師 調整中）	倫理学
6	女性と社会	渡部麻衣子	倫理学
7	女性と技術	渡部麻衣子 （外部講師 調整中）	倫理学
8	技術と社会 1	渡部麻衣子 （外部講師 調整中）	倫理学
9	技術と社会 2	渡部麻衣子 （外部講師 調整中）	倫理学
10	まとめ	渡部麻衣子	倫理学

○評価の方法

1. 出席点：70点

参加点：5点x10回

感想：2点x10回（出席者のみ提出可）

2. 1600時程度の最終レポート：30点x1回（7回以上出席し十分に参加したと判断される場合のみ提出可）

○履修上の注意

資料はMoodle上に掲示するので、必要な場合は各自で印刷して持参すること。

感想、レポートもMoodle上で提出する。

○フィードバックの方法

感想には、直接または授業内で、できるだけ返答する。レポートは返却しない。

○準備学修（予習・復習）

予習：提示する資料を読み、毎回一つ以上の感想または質問を持って授業に出席すること。（90分）

復習：資料とメモを読み返して、感想を書き、提出すること。（90分）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1118-8	医療倫理入門	渡部麻衣子	1 学年

- 開講時期 〔1〕 学期〔水・1〕 時限〔B〕
 〔1〕 学期〔木・2〕 時限〔D〕
 〔2〕 学期〔火・1〕 時限〔F〕
 〔2〕 学期〔木・1〕 時限〔J〕

○授業形式 講義・演習

○履修定員 〔30〕名

○ねらい

医療倫理学は、幅広い医療実践に関わる多岐に渡る倫理的課題を論じる倫理学の応用領域です。倫理学は、人が「正しい」あるいは「善い」行為を選択するための、合理的な判断基準を示すことを大きな目標としています。したがって、医療倫理学は、医療の実施を「正しい」あるいは「善い」ものとするための、合理的な判断基準を示すことを目指す領域と言えるでしょう。この授業では、この学問への入門編として、この合理的判断基準の一つとして1979年に提案され長く現場で用いられてきた「医療倫理四原則」と呼ばれる四つの原則 - 「自律の尊重」「善行」「正義」「無危害」 - について、関連する事例を参照しながら学びます。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-4 自己決定の尊重と個人情報保護

○教科書

授業内で指定する。

○参考書

『入門・医療倫理 I、II』（赤林朗、編勁草書房、2006年）

『生命倫理のレポート・論文を書く』（松原洋子・伊吹友秀、東京大学出版会、2018年）

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	イントロダクション	渡部麻衣子	倫 理 学
2	自律の尊重（1）	渡部麻衣子	倫 理 学
3	自律の尊重（2）	渡部麻衣子	倫 理 学
4	善行（1）	渡部麻衣子	倫 理 学
5	善行（2）	渡部麻衣子	倫 理 学
6	正義（1）	渡部麻衣子	倫 理 学
7	正義（2）	渡部麻衣子	倫 理 学
8	無危害（1）	渡部麻衣子	倫 理 学
9	無危害（2）	渡部麻衣子	倫 理 学
10	まとめ	渡部麻衣子	倫 理 学

○評価の方法

1. 出席点：70点

参加点：5点x10回

感想：2点x10回（出席者のみ提出可）

2. 1600時程度の最終レポート：30点x1回（7回以上出席し十分に参加したと判断される場合のみ提出可）

○履修上の注意

資料はMoodle上に掲示するので、必要な場合は各自で印刷して持参すること。

感想、レポートはMoodle上で提出する。

○フィードバックの方法

感想には、特に重要と思われる場合に、返信する。レポートは返却しない。

○準備学修（予習・復習）

予習：事前に資料を読んで、感想や質問を一つ以上持って授業に参加すること。（90分）

復習：資料やメモを読み返し、最終レポートに備えること。（90分）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1118-9	国家とは何か	小野純一	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [水・5] 時限 [C]

○授業形式 講義・演習・実習

○履修定員 [20] 名

○ねらい

あらためて「国家とは何か」と問うことに奇異な感じを抱かれる人もいるであろう。日本という国は現に存在しているし、その機能も十全とは言えなくとも、発揮されていると思われるからである。すなわち国民主権のもと、憲法ならびに各種の法令に基づいて議院内閣制が行われ、基本的人権の保護、教育、税の徴収、公共事業、警察・消防・医療など、社会が円滑に活動できるような組織と機能を発揮しているからである。しかしたとえばそこで定義される国民とはどのような人をいうのであろうか。また国民主権に基づいて国家が成立していると考え、その主権の及ぶ範囲はどこまでなのであろうか。これに対して国家主権という概念も考えられる。特に貿易や安全保障、危機管理といった側面では国家は国際社会の中で一定の意思表示や行動を選択することになる。つまり極端な場合、国家は戦争や国民の行動に対する取り締まりといった強制と暴力を発揮しうる存在であり、特定の国民との間に対立を生じさせる可能性がある。つまり誰のための国家かという問いも存在する。本科目では、あらためて国家という概念が歴史的にどのようにして生じたものかを振り返りつつ、そこから日本という国家が抱える特殊性と課題とを概観しようとする。もとより特定の政治的立場を標榜するものではないので、一定の解決策や方向性を示すことはないが、出来るだけ受講者の疑問を共有しながらディスカッションすることを通じて、日本の社会が抱える課題を明らかにしていきたい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-6 倫理的行動と社会規範の順守

○教科書

カント『永遠平和のために』岩波文庫、資料配付

○参考書

坂本多加雄『国家学のすすめ』ちくま新書

萱野稔人『国家とはなにか』以文社

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	人はなぜ人を殺してはいけないか（1）	加藤直克	外来講師
2	人はなぜ人を殺してはいけないか（2）	加藤直克	外来講師
3	人はなぜ人を殺してはいけないか（3）	加藤直克	外来講師
4	CountryとNationとState、国家の起源	加藤直克	外来講師
5	カント『永遠平和のために』（1）	加藤直克	外来講師
6	カント『永遠平和のために』（2）	加藤直克	外来講師
7	帝国主義、世界大戦、安全保障	加藤直克	外来講師
8	国民の教育と言語、移民と難民	加藤直克	外来講師
9	あらためて日本という国を問う（1）	加藤直克	外来講師
10	あらためて日本という国を問う（2）	加藤直克	外来講師

○評価の方法

出席を含め、ディスカッションなど授業への参加度とレポート

○履修上の注意

授業内で伝える

○フィードバックの方法

毎回の感想レポートを提出し、その感想や疑問に対して、毎回コメントを書いて返却する。

○準備学修（予習・復習）

毎回の授業の準備学習としては、前回の講義内容を読み返す（予習90分、復習90分）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1119-1	はじめての哲学	小野純一	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [水・1] 時限 [B]
[2] 学期 [水・1] 時限 [H]

○授業形式 講義

○履修定員 [10] 名

○ねらい

この授業では、ことばの意味と心、人間、状況、世界との関わりについて考えます。知るとはいかなる事態なのか、言葉の意味のはたらきは人に何をもたらすのか、意志や理由、行為、観察によらない知識、自己と他者とのかかわり、時間、同一性と変化、価値とは何かといった主題を論じ、また議論し、哲学的に思考することを目指します。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

資料配布。

○参考書

スピノザ『エチカ』中公クラシックス。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	不条理	小野純一	哲学
2	懐疑	小野純一	哲学
3	二元論	小野純一	哲学
4	アイデンティティ	小野純一	哲学
5	自由意志	小野純一	哲学
6	道徳	小野純一	哲学
7	善	小野純一	哲学
8	虚無	小野純一	哲学
9	過去・現在・未来	小野純一	哲学
10	まとめ	小野純一	哲学

○評価の方法

授業中の読解、議論、ミニレポート

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

配布資料を読み、参考書の理解を深める（予習90分、復習90分）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1119-2	哲学の入門	小野純一	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [水・5] 時限 [C]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

この講義では哲学の思考法を学ぶことを目的とします。簡単な哲学の文章を読みながら、自分で思考するとはどういうことかを理解することを目指します。具体的には、現代の学問の基礎を形成した人類史上最大の天才の一人であるウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』を取り上げます。この本はこれまでの哲学を根本から変えるために、ウィトゲンシュタインが自分の哲学的な考察を短い文章で記したものです。授業ではこの『論理哲学論考』に補足説明を加えながら、その意義、メタ言語の構築、現代科学全般への影響などを学びます。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

配布資料

○参考書

ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』岩波文庫。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	ウィトゲンシュタインとは誰か	小野純一	哲学
2	『論理哲学論考』というテキストについて	小野純一	哲学
3	事実、事態、現実	小野純一	哲学
4	もの、像	小野純一	哲学
5	名、命題	小野純一	哲学
6	論理空間	小野純一	哲学
7	シンボル	小野純一	哲学
8	自然言語と人工言語	小野純一	哲学
9	世界と独我	小野純一	哲学
10	まとめ・最終課題	小野純一	哲学

○評価の方法

授業での取り組み（40%）、最終課題（60%）

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』について配布資料を参考に読解し理解を深める（予習90分、復習90分）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1119-3	言語文化入門Ⅰ（アラビア）	小野純一	1 学年

○開講時期 〔1〕学期〔木・2〕時限〔D〕

○授業形式 演習

○履修定員 〔10〕名

○ねらい

この授業は各回ともアラビア語入門として語学に加え、アラビア語文化圏の紹介を行います。アラビア語は世界で3番目に多くの地域で話される国連の公用語です。ロシアと同じくらいの面積を占める西アジアから北アフリカで話されます。文字記録は1600年前からあり、人類に学術用語を提供した数少ない古典語の一つ（他にラテン語、サンスクリット、中国語）として、現在もさらに重要性を増す国際的共通語です。アラビア語が文化形成に直接影響した地域はインドや中国、アフリカ、ヨーロッパなど、ユーラシア大陸全域とアフリカ大陸の北半分、東南アジア諸島に及びます。例えば17世紀までヨーロッパ医学の教科書だった『医学典範』原典はアラビア語ですし、哲学や数学、自然科学の専門用語もアラビア起源が多くあります。この授業ではアラビア文字を覚え、アラビア語会話のごく初歩を学び、アラビア語文化圏の言語、思想、芸術、音楽、建築、食文化などに触れることを目指します。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

なし（プリントを配布）

○参考書

新妻仁一『アラビア語文法ハンドブック』白水社、2009年

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	アラビア文化の起源／文字・名詞文	小野純一	哲学
2	アラビア語の特徴／疑問文・名詞の性	小野純一	哲学
3	アラビア文化とイスラーム／非限定・形容詞の性	小野純一	哲学
4	アラビア文化とペルシア／指示代名詞	小野純一	哲学
5	アラビア文化とユダヤ／冠詞とワスラ記号	小野純一	哲学
6	アラビア文化とヨーロッパ／ニスバ形容詞	小野純一	哲学
7	アラビア文化とインド／完了形と格	小野純一	哲学
8	アラビア文化と中国／所有表現と前置詞	小野純一	哲学
9	アラビア文化と東南アジア／人称、副詞	小野純一	哲学
10	アラビア文化とアフリカ／未完了	小野純一	哲学

○評価の方法

授業参加態度、出席、課題によって評価する。

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

配布資料のテキストを読み、練習問題を解く（予習90分、復習90分）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1119-4	言語文化入門Ⅱ（アラビア）	小野純一	1 学年

○開講時期 〔2〕学期〔木・2〕時限〔K〕

○授業形式 演習

○履修定員 〔10〕名

○ねらい

この授業は各回ともアラビア語入門として語学に加え、アラビア語文化圏の紹介を行います。アラビア語は世界で3番目に多くの地域で話される国連の公用語です。ロシアと同じくらいの面積を占める西アジアから北アフリカで話されます。文字記録は1600年前からあり、人類に学術用語を提供した数少ない古典語の一つ（他にラテン語、サンスクリット、中国語）として、現在もさらに重要性を増す国際的共通語です。アラビア語が文化形成に直接影響した地域はインドや中国、アフリカ、ヨーロッパなど、ユーラシア大陸全域とアフリカ大陸の北半分、東南アジア諸島に及びます。例えば17世紀までヨーロッパ医学の教科書だった『医学典範』原典はアラビア語ですし、哲学や数学、自然科学の専門用語もアラビア起源が多くあります。この授業ではアラビア文字を覚え、アラビア語会話のごく初歩を学び、アラビア語文化圏の言語、思想、芸術、音楽、建築、食文化などに触れることを目指します。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

教科書：なし（プリントを配布）

○参考書

新妻仁一『アラビア語文法ハンドブック』白水社、2009年

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	思想／非定型複数、否定	小野純一	哲学
2	哲学／接続法	小野純一	哲学
3	科学／比較級・最上級	小野純一	哲学
4	書道／動詞	小野純一	哲学
5	音楽／義務、許可	小野純一	哲学
6	都市／動詞の用法	小野純一	哲学
7	建築／命令	小野純一	哲学
8	映画／派生形動詞、色	小野純一	哲学
9	文学／数詞（1）	小野純一	哲学
10	料理／数詞（2）	小野純一	哲学

○評価の方法

授業参加態度、出席、課題によって評価する。

○履修上の注意

この授業では、アラビア語Iを履修し、文字が読み書きできる人を対象にします。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

配布資料のテキストを読み、練習問題を解く（予習90分、復習90分）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1122-3	対人交流の臨床心理学	佐々木裕子	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [A]
[2] 学期 [水・1] 時限 [H]
[2] 学期 [水・3] 時限 [I]

○授業形式 講義・実習

○履修定員 [20] 名

○ねらい

臨床心理学は、個人あるいは集団の心理的不適応状態について、科学的に理解・把握し、より適応的で自己実現的な状態へと援助するための人間理解と心理的支援法を実践的かつ理論的に探究する心理学の一分野です。本授業では、支援の対象となる「心理的不適応（心の問題）を抱える個人（集団）」を対人関係の視点から理解した上で、代表的な心理療法理論と技法を学習します。さらに実習を通して、心理的支援となる基本的なかわり方の習得を目指します。

- 1) 臨床心理学における人間理解の基本的考え方を説明できる
- 2) 心理的不適応（心の問題）事例の臨床的理解の仕方がわかる
- 3) 心理的支援（心理療法）の基本的プロセスと方法が説明できる

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

II-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

必要に応じてプリントを配布する。予習として、「徹底図解 臨床心理学」青木紀久代編著 新星出版社を使用。

○参考書

川瀬正裕・松本真理子・松本英夫『心とかかわる臨床心理』ナカニシヤ出版

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	オリエンテーション：臨床心理学の定義	佐々木裕子	心理学
2	心理的問題を理解する視点1「発達障害」	佐々木裕子	心理学
3	心理的問題を理解する視点2「摂食障害」	佐々木裕子	心理学
4	心理的問題を理解する視点3「ひきこもり」	佐々木裕子	心理学
5	心理的不適応のメカニズム「精神分析的心理療法」	佐々木裕子	心理学
6	対人交流に基づいた心理的支援1「来談者中心療法」	佐々木裕子	心理学
7	対人交流に基づいた心理的支援2「マイクロカウンセリング」	佐々木裕子	心理学
8	行動変容につなげる認知的変容技法「認知行動療法」	佐々木裕子	心理学
9	家族への心理的支援「家族療法」	佐々木裕子	心理学
10	その他の心理的支援法	佐々木裕子	心理学

○評価の方法

授業課題への取り組みと貢献度、授業レポートの記入内容によって評価する。

○履修上の注意

特になし

○フィードバックの方法

授業レポートの内容について、翌週の授業内にてフィードバックする。

○準備学修（予習・復習）

予習（60分）：指定された教科書の該当ページを読んで、考えたこと疑問に思ったことをまとめてくる。

復習（120分）：本日の学習課題について解答を作成する。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1122-4	母子関係論と人格発達	佐々木裕子	1 学年

- 開講時期 [2] 学期 [木・1] 時限 [J]
[2] 学期 [木・2] 時限 [K]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

物語作品を題材に、登場人物の心の成長・発達過程を母子関係論や人格発達論から読み解きます。これにより、心理臨床実践において必要となる人格の形成や心の病理に関する主要な理論や重要概念を学習します。本授業を通して、自らの分離・個体化の過程を振り返り、一人の人間として自律・自立していくこと、そして、人と人との間に存在する“個”としての自分のあり方（ナラティブ）を創り出していくことを目指します。

1) 物語を母と子の結びと対象喪失のプロセスから理解する考え方を獲得する

2) 人格理論に関する主要な理論や重要概念を説明できる

3) Narrative approach による人間理解・自己理解ができる

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

必要に応じてプリントを配布する。

○参考書

河合隼雄「昔話と日本人の心」岩波書店／北山修「見るなの禁止」岩崎学術出版社／北山修「最後の授業－心をみる人たちへ」みすず書房／森省二「アンデルセン童話の深層」創元社／桐生操「本当は恐ろしいグリム童話」

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	安心毛布の意味「移行対象」	佐々木裕子	心理学
2	子どもが作るファンタジーの力「イマジナリー・コンパニオン」	佐々木裕子	心理学
3	「自分がない」とは？	佐々木裕子	心理学
4	子どもから大人への通過儀礼「イニシエーション」	佐々木裕子	心理学
5	「いつも誰かと繋がっていたい」のはなぜ？	佐々木裕子	心理学
6	分離・個体化に必要な「母子一体感」	佐々木裕子	心理学
7	「反抗期」に親は必要？	佐々木裕子	心理学
8	ありのままにいることと「自律」	佐々木裕子	心理学
9	「親を恨む」気持ちの裏には？	佐々木裕子	心理学
10	恨みからの解放「阿閼世コンプレックス」	佐々木裕子	心理学

○評価の方法

授業への取り組みと、毎授業課せられるディスカッション・レポートの内容によって評価する。

○履修上の注意

特になし

○フィードバックの方法

ディスカッション・レポートの内容を翌週の授業内でフィードバックする。

○準備学修（予習・復習）

予習（60分）：参考書で挙げたような書籍（神話や昔話のメタファに関するもの）を何かしら選んで読む。

復習（120分）：授業で取り上げたディスカッション・テーマから連想される物語作品（小説、アニメ、テレビドラマ、芸術作品など何でも可）を見つけ、どのような解釈ができるか考える。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1123-2	自己理解の心理アセスメント	佐々木裕子	1 学年

- 開講時期 [2] 学期 [火・1] 時限 [F]
[2] 学期 [火・2] 時限 [G]

○授業形式 講義・実習

○履修定員 [20] 名

○ねらい

心理的支援では、対象者を理解し、どのような心理支援を提供していくかについて検討する作業として心理アセスメントを行います。本授業では、この心理アセスメントに関する理論と考え方を理解し、アセスメントの一技法として用いられる心理検査法について実習を通して体験的に理解することを目指します。これにより自己理解を深めていくきっかけとなることを期待します。

1) 心理アセスメントに関する理論と考え方について説明できる。

2) 心理アセスメント技法（面接法、観察法、心理検査法等）を用いた対象者理解の仕方を理解する。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅱ-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

必要に応じてプリントを配布する。

○参考書

氏原寛他編「心理査定実践ハンドブック」創元社

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	心理アセスメントとは	佐々木裕子	心理学
2	心理検査と性格占いの違い	佐々木裕子	心理学
3	心理検査の全体像	佐々木裕子	心理学
4	Intelligence Test実習	佐々木裕子	心理学
5	Self-report inventory実習 1	佐々木裕子	心理学
6	Self-report inventory実習 2	佐々木裕子	心理学
7	Performance Test実習	佐々木裕子	心理学
8	Performance-based personality Assessment実習 1	佐々木裕子	心理学
9	Performance-based personality Assessment実習 2	佐々木裕子	心理学
10	Drawing Test実習	佐々木裕子	心理学

○評価の方法

授業への貢献度、毎回の授業レポートの内容により評価する。

○履修上の注意

心理アセスメントの方法を学ぶだけでなく、自己理解・自己分析に取り組むことを了解した上で、受講してください。

○フィードバックの方法

レポートの内容について、翌週の授業内にてフィードバックする。

○準備学修（予習・復習）

予習（60分）：授業で取り上げるアセスメント技法について調べ、疑問をまとめてくる。

復習（120分）：授業課題テーマについて、自己理解・自己分析をまとめてくる。

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 1 2 4	心と体の心理支援法	佐々木裕子	1 学 年

- 開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [D]
[1] 学期 [木・3] 時限 [E]

○授業形式 講義・実習

○履修定員 [15] 名

○ねらい

カウンセリングや心理療法といわれる心理学的支援法には、言葉を使った面接法だけでなく、体や表現活動を用いた様々な技法やアプローチがあります。本授業では、心と体のつながりに注目した様々な心理的アプローチを取り上げ、理論講義と実習を組み合わせ学習していきます。本授業を通して、受講生自らが体で感じ、体で自己表現することの意味を理解するとともに、リラックス感や成長感、充実感を体験し、自己の内的体験過程に開かれた状態を深めていけることを目指します。

- 1) 心と体のつながりを重視した心理的支援法の理論や重要概念を説明できる
- 2) 様々な自己表現法による心理的支援法の基礎技法を獲得する
- 3) Narrative approach による人間理解・自己理解ができる

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-3 自己評価と研鑽

○教科書

必要に応じて資料を配布する。

○参考書

必要に応じて授業の中で提示する。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	オリエンテーション＜グループワーク＞	佐々木裕子	心 理 学
2	心身のリラックス状態の習得を目指した心理的支援技法＜自律訓練法＞	佐々木裕子	心 理 学
3	体の動きの再発見から心理的自律を目指した心理的支援技法＜臨床動作法＞	佐々木裕子	心 理 学
4	協働作業を通じた自由表現による心理支援技法＜交互ぐるぐる描き物語統合法MSSM＞	佐々木裕子	心 理 学
5	ビジュアル作品作成を通じた自己表現による心理支援技法＜コラージュ療法＞	山上榮子 佐々木裕子 吹田映子	外来講師 心理学 文学
6	身体表現活動による心理支援技法＜ダンス・セラピー 1＞	岩下 徹 佐々木裕子 吹田映子	外来講師 心理学 文学
7	感情表現に焦点づけた心理技法ワーク＜グループ体験：「はぁ」って言うゲーム＞	佐々木裕子	心 理 学
8	非言語表現による心理技法ワーク＜グループ体験：無言ディスカッション＞	佐々木裕子	心 理 学
9	身体表現活動による心理支援技法＜ダンス・セラピー 2＞	岩下 徹 佐々木裕子 吹田映子	外来講師 心理学 文学
10	全体の振り返り	佐々木裕子	心 理 学

○評価の方法

出席、授業課題への取り組み、リフレクション・シートの記入内容によって評価する。

○履修上の注意

「アートセラピー入門」の授業と一部合同で実施するので、そのことを了解の上で受講すること。

○フィードバックの方法

リフレクション・シートにコメントをつけて返す。

○準備学修（予習・復習）

予習（90分）：各回の心理的支援技法について調べてくる。

復習（90分）：体験した支援法が地域医療における人々の心身の健康増進にどのように役立てられるか考える。

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 1 3 4	文学への誘い	吹 田 映 子	1 学 年

○開講時期 〔2〕学期〔木・1〕時限〔J〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔20〕名

○ねらい

みなさんは日常生活で「シュール」という言葉を使っていますか。この言葉は「シュルレアリスム（超現実主義）」という、20世紀初頭にフランスで生まれた文学潮流につけられた名前に由来します。この潮流は、第一次世界大戦時に戦場を経験し、リアルな感覚としての不安や秩序の崩壊、理性の失墜といったものに直面した若者たちが、未来に絶望しながらも、この負の感覚を研ぎ澄ませて、自由な未知の秩序へと転化させる試みとして生まれました。それは瞬く間に他の芸術領域にも広がり、サルバドール・ダリやルネ・マグリット等、日本でもよく知られる画家たちの作品に結実します。この文学潮流の中心にいたのはアンドレ・ブルトンという作家ですが、医学生だった彼が精神医学に関心を寄せ、その知見を生かしながら、いかに自由な詩や小説を生み出せるかを実験したのが始まりでした。このようなシュルレアリスムが21世紀初頭に生きる私たちにとってどのような意味を持ち得るのか、一緒に考えたいと思います。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

資料を配布します。

○参考書

塚原史『シュルレアリスムを読む』白水社

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	シュルレアリスムとは何か	吹 田 映 子	文 学
2	ダダ（無意味）という廃墟の中から	吹 田 映 子	文 学
3	『シュルレアリスム宣言』（1）	吹 田 映 子	文 学
4	『シュルレアリスム宣言』（2）	吹 田 映 子	文 学
5	シュルレアリスムと精神医学	吹 田 映 子	文 学
6	マックス・エルンストのコラージュ小説（1）	吹 田 映 子	文 学
7	マックス・エルンストのコラージュ小説（2）	吹 田 映 子	文 学
8	ルネ・マグリットの「言葉とイメージ」（1）	吹 田 映 子	文 学
9	ルネ・マグリットの「言葉とイメージ」（2）	吹 田 映 子	文 学
10	商業広告のなかのシュルレアリスム	吹 田 映 子	文 学

○評価の方法

授業中の読解への参加、小レポート

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

レポートにコメントを返す

○準備学修（予習・復習）

前回までの資料を読み返す（3時間）

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 1 3 5	文学的探索	吹 田 映 子	1 学 年

- 開講時期 〔1〕 学期〔火・3〕 時限〔A〕
 〔2〕 学期〔火・2〕 時限〔G〕

○授業形式 講義・演習

○履修定員 〔10〕 名

○ねらい

俳句（主に江戸時代の）と欧米の詩を読みます。俳句は19世紀末から西洋世界に紹介され始め、翻訳を通じて20世紀の文学運動（イギリスの「イマジズム」、アメリカの「ビート派」等々）に少なくない影響を与えてきました。同時に俳句それ自体が普遍的短詩型となっており、現在では全世界おそらく百ヵ国以上の、幾つもの言語で書かれる「世界俳句」が、なおも（支配・収奪・搾取とはちがう）グローバル化を続けています。これは文学的・世界的に稀な現象と言え、人類の文化と世界認識にどんな変容をもたらすのか否か、未知のままです。この授業では、俳句の翻訳が欧米の詩人たちに与えた衝撃と、彼らによる俳句の読み換え・再創造が今度は私たち（日本語ネイティブ）に与えてくれる俳句の「（再）発見」、に焦点を合わせます。二種類の詩のたんなる比較ではなく、俳句とその翻訳と欧米詩とのあいだを行き来し、交流させることで発生する「ポエジー」の気圏を感じてもらうことがこのクラスのねらいです。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

なし

○参考書

授業時に紹介します。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	I 翻訳という創造 (1) 英語訳：世界化の発火点 R・H・ブライス	鈴 木 俊 弘	外 来 講 師
2	(2) 仏語訳：ルネ・シフエール、モリス・クワイヨ	鈴 木 俊 弘	外 来 講 師
3	II 翻訳俳句の詩的衝撃：フランス語圏とUSAの詩人たちの俳句論と詩作品 (1) 俳句論 イヴ・ボヌフォワ、フィリップ・ジャコテ・ロジェ・ミュニエ	鈴 木 俊 弘	外 来 講 師
4	(2) 仏語詩 ボヌフォワ、ジャコテ、アンヌ・ペリエ、R・M・リルケ	鈴 木 俊 弘	外 来 講 師
5	(3) 米語詩 ジャック・ケルアック、アレン・ギンズバーグ、ゲイリー・スナイダー	鈴 木 俊 弘	外 来 講 師
6	間奏：芸術へのインスピレーション ジュアン・ミロ（美術）、ピーター・ガーランド（音楽）	鈴 木 俊 弘	外 来 講 師
7	III 日本からのアプローチ (1) 俳句を語ることの（不）可能性：太宰治、山本健吉	鈴 木 俊 弘	外 来 講 師
8	(2) 俳句の日本語訳：西脇順三郎	鈴 木 俊 弘	外 来 講 師
9	(3) 禅的読解：鈴木大拙、有吉豊太郎	鈴 木 俊 弘	外 来 講 師
10	(4) 「発句 [= 俳句] はきらひである」：柳田國男の連歌論	鈴 木 俊 弘	外 来 講 師

○評価の方法

授業への参加、期末レポート

○履修上の注意

- ・上記の授業内容・項目は仮の見取り図であり、限られた授業時間内では部分的にしか取り上げることができません。
- ・英語訳俳句と英語詩は英語で、仏語その他の文献は日本語訳で読みます。
- ・担当者の専門領域が仏語文学のため、対象は仏語圏の方に傾きます。

○フィードバックの方法

レポートにコメントをつけて返却する

○準備学修（予習・復習）

資料を読む（3時間）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1140-1	医学古典語Ⅰ	小野純一	1 学年

○開講時期 〔1〕学期〔火・3〕時限〔A〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔30〕名

○ねらい

医学用語のうち解剖用語はラテン語語源のものが多く、一般的な医学用語、すなわち臨床や医学論文で用いられる用語はギリシャ語語源のものが多く、医学古典語は現在の医学における国際語である英語での臓器、身体部位、疾患等について、ギリシャ語およびラテン語由来の表現の構造と意味とを体系的に学ぶことを目標とする。具体的には、接頭辞、語根、接尾辞という構成要素を学ぶが、これは漢字における偏と旁を知ることによって語の成り立ちを推測しつつ、効果的に記憶していく方法に類似しているといえる。代表的な接頭辞、語根を学ぶことにより、医学のみならず、一般の英語語彙も飛躍的に増やすことができることを実感していただきたい。また、同時に医学用語の発音とアクセントをしっかりと学ぶことで一般的な英語の綴りと発音についてもあらためて学ぶことができる。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅱ-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

G.L.Smith/P.E.Davis『プログラム学習による医学用語の学び方 第2版』裏田武夫訳、医学書院、資料配付

○参考書

適宜プリントを配布する。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
2	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
3	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
4	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
5	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
6	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
7	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
8	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
9	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
10	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学

○評価の方法

各回でミニテストを行い、その総合点で評価します。

○履修上の注意

医学古典語Ⅰの履修希望者は医学古典語Ⅱも併せて履修することを勧めます。Ⅰだけではその知識は断片的で記憶に定着せず、応用力まではとても望めないからです。なお医学古典語Ⅱだけを履修することはできません。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

予習として、毎回の単語テストにむけて各自で調べ暗記すること（90分）。

復習として、単語テストで間違えた語彙の他に、授業で新たに学んだ語彙を確認すること（90分）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1140-2	医学古典語Ⅱ	小野純一	1 学年

○開講時期 〔2〕学期〔水・3〕時限〔1〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔30〕名

○ねらい

医学用語のうち解剖用語はラテン語語源のものが多く、一般的な医学用語、すなわち臨床や医学論文で用いられる用語はギリシャ語語源のものが多く、医学古典語は現在の医学における国際語である英語での臓器、身体部位、疾患等について、ギリシャ語およびラテン語由来の表現の構造と意味とを体系的に学ぶことを目標とする。具体的には、接頭辞、語根、接尾辞という構成要素を学ぶが、これは漢字における偏と旁を知ることによって語の成り立ちを推測しつつ、効果的に記憶していく方法に類似しているといえる。代表的な接頭辞、語根を学ぶことにより、医学のみならず、一般の英語語彙も飛躍的に増やすことができることを実感していただきたい。また、同時に医学用語の発音とアクセントをしっかりと学ぶことで一般的な英語の綴りと発音についてもあらためて学ぶことができる。医学古典語ⅡはⅠに引き続いて、より多くの臨床用語、解剖用語を学ぶとともに、基本的な造語要素についての知識の定着を目指す。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅱ-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

G.L.Smith/P.E.Davis『プログラム学習による医学用語の学び方 第2版』裏田武夫訳、医学書院、資料配付

○参考書

適宜プリントを配布する。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
2	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
3	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
4	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
5	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
6	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
7	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
8	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
9	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
10	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学

○評価の方法

各回でミニテストを行い、その総合点で評価します。

○履修上の注意

すでに医学古典語Ⅰを履修している人が対象です。医学古典語Ⅱだけを履修することはできません。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

予習として、毎回の単語テストにむけて各自で調べ暗記すること（90分）。

復習として、単語テストで間違えた語彙の他に、授業で新たに学んだ語彙を確認すること（90分）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 1 5 0	高齢社会論	青山泰子	1 学 年

○開講時期 [1] 学期 [水・5] 時限 [C]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

高齢化が進む社会で何が起きているのか。この講義では、介護問題に加え、高齢者を対象とした施設やサービス、住まい方、看取りの問題など、医師として必要な高齢社会の基礎的知識を得る。また介護食や高齢者疑似体験、自助具の操作などの体験実習を通して、高齢者との接し方や配慮すべきポイントを自らの経験の中で学ぶ。

高齢化が進む地域社会におけるリーダーには、住民の生活の実態に基づき、多職種と連携しながら、保健・医療・福祉をトータルでとらえる力が求められる。超高齢社会に医師としてかかわる学生たちに、今必要とされる知識と技術を吸収して、将来リーダーシップを発揮してほしい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-1 医師になるための自覚

○教科書

特に指定はせず、毎回資料を配布する。

○参考書

自治医科大学監修, 地域医療テキスト, 医学書院, 2009.
令和4年版 高齢社会白書.

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	超高齢社会の変動と現状	青山泰子	社 会 学
2	高齢者と介護問題—介護食体験—	青山泰子	社 会 学
3	高齢者の生活と福祉施設—認知症を考える—	青山泰子	社 会 学
4	福祉サービスの種類と特性—自助具に触れる—	青山泰子	社 会 学
5	高齢期の住まい方—フレイルに対応する—	青山泰子	社 会 学
6	看取りを考える	青山泰子	社 会 学
7	高齢者疑似体験（1）	青山泰子	社 会 学
8	高齢者疑似体験（2）	青山泰子	社 会 学
9	高齢社会を支える仕組み—地域包括ケアを考える—	青山泰子	社 会 学
10	講義と体験実習の振り返り、補足と総括	青山泰子	社 会 学

○評価の方法

授業中の課題、体験レポート、受講態度により総合的に評価する。
メディア授業を部分的に導入する。

○履修上の注意

体験実習は、やや変則的な日程で実施される場合があるので、その都度指示をよく確認すること。

○フィードバックの方法

授業全体を通じて、学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

一部メディア授業を併用して、準備学修を行う。（予習60分、復習120分）

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 1 5 1	社会を診る方法	青山泰子	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [A]
[2] 学期 [木・1] 時限 [J]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

世の中には、さまざまな情報が溢れていて、私たちは日常的にそれを取捨選択して生活している。正当な調査手続きを踏んだ信頼性の高い情報もあるが、中にはかなり怪しいものもある。この講義は、溢れる情報に疑いの目を持ち、多角的な観点から社会を診断する目を養う。

前半の授業では、さまざまな情報の基になる社会調査の基礎を学びつつ、思い込みを捨て、因果関係を考えるトレーニングを行う。後半では、実際に起きた事件、社会現象、歴史上の出来事を素材として、報道のされ方、映像が持つ力、情報が我々に与える影響力の考察を通して、的確な状況判断に基づいて行動する力を養う。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

特に指定はせず、毎回資料を配布する。

○参考書

「情報社会に生きる」医と知の航海, 永井良三監修, 自治医大総合教育編, 西村書店, 2016.

新・社会調査へのアプローチ: 論理と方法, 大谷信介 他 編, ミネルヴァ書房, 2013.

メディアは私たちを守るか?, 木村朗編著, 凱風社, 2007.

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	社会を診る 一情報の取捨選択一	青山泰子	社会学
2	思い込みを捨てる	青山泰子	社会学
3	因果関係を考える	青山泰子	社会学
4	社会調査の基礎 一種類と方法一	青山泰子	社会学
5	量的質的データの特質と扱い方	青山泰子	社会学
6	報道のされ方を考える	青山泰子	社会学
7	社会的ネットワークと対人関係	青山泰子	社会学
8	映像が持つ力	青山泰子	社会学
9	人間の営みを診る・伝える	青山泰子	社会学
10	データを扱う者の責務と心構え	青山泰子	社会学

○評価の方法

授業中の課題の合計、受講態度により総合的に評価する。

メディア授業を部分的に導入する。

○履修上の注意

特になし

○フィードバックの方法

提出課題に対して、授業で学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

一部メディア授業を併用して、準備学修を行う。（予習60分、復習120分）

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 1 5 3	医療人類学	田 中 大 介	1 学 年

- 開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [D]
[1] 学期 [木・3] 時限 [E]
[2] 学期 [木・2] 時限 [K]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [20] 名

○ねらい

医療人類学とは文化人類学における下位領域の一つであり、疾病や健康に関する社会－文化的側面を扱うものとして位置づけられる。一方で医療人類学の研究対象は極めて多岐にわたり、たとえば各地の社会における民間療法的な実践から最先端の医療テクノロジーをめぐる動向に至るまで射程に含むことに加えて、「病い」の概念や医療の制度的変遷など広汎な問題群に関心が向けられている。これらの学術的傾向を踏まえて、この授業ではまず医療人類学の統一的な輪郭を象る基礎知識を学び、さらに現代の医療をめぐる個別の問題をケース・スタディとして議論しながら、特に今後の地域医療にとって必要不可欠とも言える人類学的視座の獲得を目指す。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

なし。毎回の授業で資料を配布する。

○参考書

なし。参考する文献・論文等がある場合は授業内で別途指示する。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	医療とケアの概念	田 中 大 介	文 化 人 類 学
2	医療とコミュニケーション（1）	田 中 大 介	文 化 人 類 学
3	医療とコミュニケーション（2）	田 中 大 介	文 化 人 類 学
4	医療とコミュニケーション（3）	田 中 大 介	文 化 人 類 学
5	ライフコースの視座	田 中 大 介	文 化 人 類 学
6	健康と病い（1）	田 中 大 介	文 化 人 類 学
7	健康と病い（2）	田 中 大 介	文 化 人 類 学
8	医師と患者の関係性（1）	田 中 大 介	文 化 人 類 学
9	医師と患者の関係性（2）	田 中 大 介	文 化 人 類 学
10	医療と社会保障	田 中 大 介	文 化 人 類 学

○評価の方法

全講義の出席を前提とする。質疑応答・ディスカッション・課題・レポートなどによって総合的に評価を行う。

○履修上の注意

特になし。

○フィードバックの方法

毎回の授業で課題を実施し、その内容を次回の授業中に講評することを通じて知見を共有する。

○準備学修（予習・復習）

次回授業の内容として予定されている題材に関して文献・論文・報道その他の多面的な情報収集を行い、合わせて授業で論じられた議論の内容を振り返りながら最新の関連動向を精査する（予習90分・復習90分）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 1 5 4	異文化理解入門	田 中 大 介	1 学 年

- 開講時期
- 〔1〕 学期〔火・3〕 時限〔A〕
 - 〔1〕 学期〔水・1〕 時限〔B〕
 - 〔1〕 学期〔水・5〕 時限〔C〕
 - 〔2〕 学期〔火・1〕 時限〔F〕
 - 〔2〕 学期〔火・2〕 時限〔G〕
 - 〔2〕 学期〔水・1〕 時限〔H〕

○授業形式 講義・演習

○履修定員 〔10〕名

○ねらい

異文化理解は如何にして可能か、その基本的な見方を考えるのが本講義の目的である。また、本講義は「医療人類学」「文化人類学」「社会学」などへの入門講義という意味も持つ。講義は「文化」にはどのような定義がなされているのかという枠組みづくりから始め、異文化の事例（アフリカ、アラブ、アジア、北米先住民等）を使いながら、「文化」について多様なものの見方の基礎を学んでいく。その過程で、学生自身が「文化」についてそれぞれの答えを出していくこと、さらには異文化の理解を妨げる「自文化」の存在とその影響力に目を向けて自分の所属する「文化」を相対的に捉えることを目指す。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

渥美一弥『「共感」へのアプローチ:文化人類学への第一歩』（春風社）

○参考書

特になし。必要のある場合は、別途指示する。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	「文化」の定義	渥 田 美 中 一 大 弥 介	外 来 講 師 学 文 化 人 類 学
2	「文化」と言語の関係	渥 田 美 中 一 大 弥 介	外 来 講 師 学 文 化 人 類 学
3	ジェンダーと「文化」	渥 田 美 中 一 大 弥 介	外 来 講 師 学 文 化 人 類 学
4	婚姻と「文化」	渥 田 美 中 一 大 弥 介	外 来 講 師 学 文 化 人 類 学
5	通過儀礼について	渥 田 美 中 一 大 弥 介	外 来 講 師 学 文 化 人 類 学
6	「文化」と「自然」「環境」について	渥 田 美 中 一 大 弥 介	外 来 講 師 学 文 化 人 類 学
7	「文化」とシンボル	渥 田 美 中 一 大 弥 介	外 来 講 師 学 文 化 人 類 学
8	「文化」の機能主義的理解と構造主義的理解	渥 田 美 中 一 大 弥 介	外 来 講 師 学 文 化 人 類 学
9	他者を「シンボル化」・「記号化」とはどのようなことか	渥 田 美 中 一 大 弥 介	外 来 講 師 学 文 化 人 類 学
10	「文化」と病・死について	渥 田 美 中 一 大 弥 介	外 来 講 師 学 文 化 人 類 学

○評価の方法

全講義出席を前提として、授業中の発言内容や積極性を基にテイクホーム試験の結果と総合して評価する。

○履修上の注意

C（1学期・水曜日・5時限）のみ田中が担当し、その他の時間割は渥美が担当する予定である。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

授業に関連する内容について独自に資料を探し、理解に努める（予習90分、復習90分）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 1 5 5	社会学概論	田 中 大 介	1 学 年

- 開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [D]
[2] 学期 [木・1] 時限 [J]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [10] 名

○ねらい

社会学の基礎用語を紹介しながら、社会学のものの見方の基本を理解していくのが本講義の目標である。社会学者バーガーによれば、社会学は自分の生きている社会にある諸制度の「当たり前」を「暴き出すこと」または「仮面をはがすこと」という「暴露戦略」にある。ここでいう暴露戦略とは、我々が日常無意識に「当たり前」として「世界」を見ているその見方を分解・解体して、その成立のメカニズムを理解することを意味している。言い換えれば、「常識」を相対化することを目指しているのである。そこで、ここでは「権力」というキーワードの基に事例を紹介していく。ここで言う「権力」とは、いわゆる国家権力といった具体的な事柄ではなく、「他人の意思を無視してまでも自分の意思を貫き通そうとするあらゆる可能性」ということとしておく。授業では、参加者と共にさまざまな事例について話し合いながら、それぞれがこれまで自明としていた事柄に関する「気づき」を積み重ね、人間と社会もしくは自己自身を新たに理解し直すを試みる。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

適宜、資料を配布する。

○参考書

特になし。必要のある場合は、別途指示する。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	「権力」とは何か？日本の事例を通して	渥 美 一 弥	外 来 講 師
2	人間関係における「構造」とは何か？	渥 美 一 弥	外 来 講 師
3	「地位」と「役割」	渥 美 一 弥	外 来 講 師
4	「交換」と人間関係について	渥 美 一 弥	外 来 講 師
5	「象徴」と意味について（言語と人間、民族と宗教）	渥 美 一 弥	外 来 講 師
6	「権力」と「権威」（社会学は権力をどう捉えてきたか）	渥 美 一 弥	外 来 講 師
7	「階級」「階層」「身分」（一見権力者よく見ると服従者）	渥 美 一 弥	外 来 講 師
8	「合理化」とは（「時間」と「人間」）	渥 美 一 弥	外 来 講 師
9	「学校」と社会（教育と権力について）	渥 美 一 弥	外 来 講 師
10	「医療」と社会（普通であることの権力性）	渥 美 一 弥	外 来 講 師

○評価の方法

全講義出席を前提として、授業中の発言内容や積極性を基にテイクホーム試験の結果と総合して評価する。

○履修上の注意

講義の初日に参考文献一覧表を配布する。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

授業に関連する内容について独自に資料を探し、理解に努める（予習90分、復習90分）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 1 5 6	文化人類学概論	田 中 大 介	1 学 年

○開講時期 [2] 学期 [水・3] 時限 [1]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [20] 名

○ねらい

我々は誰しも自分のことは自分が最もよく知っていると思いがちだが、自分という存在がどのような文化のなかで生きてきたかを省みる機会は少ない。だからこそ我々は「自己・自文化」と「他者・異文化」の間をつなぐ思考をどこかの時点で築き上げておく必要があり、同時にその思考は今後の地域医療を担う者にとって必要な資質でもある。この目論見に沿って、本授業では人間・社会・文化を深く見つめていくための視点と知識を、文化人類学の基礎理論や各地の文化的事象を通じて獲得することを目指す。また、学説史の理解なども重視するが、知識の摂取だけを重視するのではなく、文化人類学の流儀と技法を応用していくためのケース・スタディも盛り込む予定であり、全10回を通じて「自文化と異文化」を往復できる実践的な視点を深めていく。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

なし。毎回の授業で資料を配布する。

○参考書

なし。参考する文献・論文等がある場合は授業内で別途指示する。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	人間・社会・文化	田 中 大 介	文 化 人 類 学
2	文化人類学とは何か（1）	田 中 大 介	文 化 人 類 学
3	文化人類学とは何か（2）	田 中 大 介	文 化 人 類 学
4	文化人類学の黎明期	田 中 大 介	文 化 人 類 学
5	新進化主義	田 中 大 介	文 化 人 類 学
6	フィールドワークの神様と呼ばれた男	田 中 大 介	文 化 人 類 学
7	機能主義のひろがり	田 中 大 介	文 化 人 類 学
8	構造主義と人間観	田 中 大 介	文 化 人 類 学
9	自文化／異文化の理解に向けて	田 中 大 介	文 化 人 類 学
10	まとめ	田 中 大 介	文 化 人 類 学

○評価の方法

全講義の出席を前提とする。質疑応答・ディスカッション・課題・レポートなどによって総合的に評価を行う。

○履修上の注意

特になし。

○フィードバックの方法

毎回の授業で課題を実施し、その内容を次の授業中に講評することを通じて知見を共有する。

○準備学修（予習・復習）

次回授業の内容として予定されている題材に関して文献・論文・報道その他の多面的な情報収集を行い、合わせて授業で論じられた議論の内容を振り返りながら最新の関連動向を精査する（予習90分・復習90分）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 1 5 7	医療と民俗学	菊 地 元 史	1 学 年

○開講時期 [2] 学期 [火・1] 時限 [F]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

日本人はいかに病と向き合ってきたのか、日本民俗学でこれを理解しようとするのが本講義の目的である。講義は民俗学の入門からはじまり、医療と民俗学のあゆみ、そしてこれまで、日本人が病に対してどのような民俗的想像力をもって接し、対処してきたかを通観する。民俗学は、自己内省の学ともされる。そしてその資料収集には、医師の問診同様、話者との対面調査という手法が用いられる。自らの立ち位置を知り、互いの信頼関係のなかで、はじめて理解しうることが多い学問でもある。各自が民俗学を通して、自分の足もとを見つめ直し、他との共通理解を深めることができることをめざす。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

毎回の授業で資料を配布する。

○参考書

授業の中で提示する。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	「来るな」と「出て行け」	立 石 尚 之	外 来 講 師
2	民俗学とはどんな学問か	立 石 尚 之	外 来 講 師
3	民俗文化の分類と内容	立 石 尚 之	外 来 講 師
4	医療と民俗学のあゆみ	立 石 尚 之	外 来 講 師
5	病を見るまなざし	立 石 尚 之	外 来 講 師
6	疫神よ去れ	立 石 尚 之	外 来 講 師
7	河童の伝授した薬	立 石 尚 之	外 来 講 師
8	祈願と医療	立 石 尚 之	外 来 講 師
9	絵にあらわして見ること	立 石 尚 之	外 来 講 師
10	病や悪しきものとのつきあい方	立 石 尚 之	外 来 講 師

○評価の方法

出席、受講態度、およびレポート

○履修上の注意

特になし。

○フィードバックの方法

提出された課題に対して総評をする。

○準備学修（予習・復習）

授業で提示する資料を用い、各自の興味を基づいた発展学習をする（3時間相当）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1158-1	メディアと社会	山 邊 昭 則	1 学 年

○開講時期 [2] 学期 [木・2] 時限 [D]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [30] 名

○ねらい

現代において、メディアの社会的影響は益々拡大しています。専門家として適切な情報の発信・受信が求められる今日、将来医師となる皆さんにとっても重要なテーマといえます。より良い医療の推進やコミュニティの持続的発展においてもメディアの有効活用の可能性は広がっています。本授業では、幅広い視野で、メディアに関わる様々なトピックを扱います。実際の番組制作者と交流する機会を設け、発信者側の視点も習得します。以上を通じて、新しい時代の医師に求められるメディアリテラシーの基礎を身につけます。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

II-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

特に指定しない。

○参考書

視聴覚資料を含め、授業のなかで多数紹介します。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	授業の進め方／受講の留意事項等	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
2	メディアの誕生と変遷	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
3	“Fake News” という時代	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
4	国際報道	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
5	情報の倫理と法	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
6	医療とメディア	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
7	番組ができるまで I（外来講師と共同）	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
8	番組ができるまで II（外来講師と共同）	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
9	メディアを活用したコミュニティデザイン	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
10	授業全体のまとめ	山 邊 昭 則	学生生活支援センター

○評価の方法

学習プロセスの形成的評価と課題による総括的評価。（期末試験は実施しません。）

○履修上の注意

出席と授業への主体的な姿勢を重視します。

○フィードバックの方法

全体的講評、個別質問への対応、模範的フィードバックの共有等。

○準備学修（予習・復習）

各回のテーマの事前調査（90分）と事後考察（90分）を行う。必要に応じてレポートでまとめる。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1158-2	科学と社会（法学入門）	山 邊 昭 則	1 学 年

○開講時期 〔1〕学期〔木・3〕時限〔E〕

○授業形式 講義・演習

○履修定員 〔30〕名

○ねらい

科学と社会という枠組みで様々なテーマを扱う本授業において、今年度は「法」に目を向けます。私たちは法治国家に生きており、日々の暮らしにおいて様々な法令遵守が求められます。リーガルリテラシーは、医学生としても、将来、地域の持続的発展に貢献する医師としても、重要な素養の一つといえるでしょう。本授業ではその学びを支える契機として、前半において、教養としての法の基礎を共有します。後半では、現在と未来の科学と社会を捉える新しい世界観をともに考えます。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-6 倫理的行動と社会規範の順守

○教科書

特に指定しない。

○参考書

視聴覚資料を含め、授業のなかで多数紹介します。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	授業の進め方、受講の留意事項等	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
2	公法系（憲法・行政法）	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
3	民事系（民法・商法・民事訴訟法）	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
4	刑事系（刑法・刑事訴訟法）	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
5	国際人権、労働法、医事法、他	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
6	法律の実務（法曹と共同）	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
7	科学研究の法と倫理	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
8	Society 5.0 という潮流	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
9	Steve Jobsとイノベーション	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
10	地域医療とIoT（Internet of Things）	山 邊 昭 則	学生生活支援センター

○評価の方法

学習プロセスの形成的評価と課題による総括的評価。（期末試験は実施しません。）

○履修上の注意

出席と授業への主体的な姿勢を重視します。

○フィードバックの方法

全体的講評、個別質問への対応、模範的フィードバックの共有等。

○準備学修（予習・復習）

各回のテーマの事前調査（90分）と事後考察（90分）を行う。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1158-3	国際社会論	山 邊 昭 則	1 学 年

○開講時期 [2] 学期 [火・2] 時限 [G]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [30] 名

○ねらい

地域社会と国際社会は一見離れたテーマと捉えられがちですが、新しい国際的概念への理解を深めることにより、両者が有機的に連関する水路が開かれます。例えば、“Think globally, act locally”（地球規模で考え、足元から始めよう）、国連を中心に国際社会が目指す“SDGs: Sustainable Development Goals”（持続可能な開発目標）、医学領域では、“UHC: Universal Health Coverage”（全ての人々が、適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、必要な時に、支払い可能な費用で受けられる状態）などはその象徴といえます。本授業では、国際社会の様々な概念と事例への理解を深めることにより、我が国の地域社会を捉え直す新しい視点を共有します。以上を通じて、自らの世界観を広げ、主体的に社会へ貢献していく心を育みます。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

II-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

特に指定しない。

○参考書

視聴覚資料を含め、授業のなかで多数紹介する。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	授業の進め方、受講の留意事項等	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
2	SDGs (Sustainable Development Goals)	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
3	国際機構の概要 (United Nations)	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
4	環境への活動 (NGO, NPO 等)	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
5	人権への活動 (ILO, UNHCR 等)	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
6	保健への活動 (WHO, UNFPA 等)	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
7	UHC (Universal Health Coverage)	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
8	学生時代に国際感覚を磨く (外来講師と協同)	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
9	広い世界観で日本の地域医療へ貢献する	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
10	授業全体のまとめ	山 邊 昭 則	学生生活支援センター

○評価の方法

学習プロセスの形成的評価と課題による総括的評価。

○履修上の注意

本授業は、国際医療そのものを扱うものではなく、国際社会の新しい潮流への理解を深めることで、日本の社会や医療への示唆を得ることを目的とします。（国際医療そのものは他の学習機会の探索を推奨します。）

○フィードバックの方法

全体的講評、個別質問への対応、模範的フィードバックの共有等。

○準備学修（予習・復習）

各回のテーマの事前調査（90分）と事後考察（90分）を行う。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1158-5	ソーシャルデザイン論	山 邊 昭 則	1 学 年

○開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [A]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [30] 名

○ねらい

ソーシャルデザインとは、人間と自然が調和した持続可能な社会をいかに創造していくかをテーマとする学術といえます。過疎化、産業の衰退、自然災害等、コミュニティの抱える様々な課題を、領域横断的な創造的アプローチによって解決していくものとして国際的にも注目されています。課題解決のみならず、新しい価値を創ることも重視されます。本授業では、そのデザインと国内外の様々な事例へ理解を深め、広い視野から、一見関係のない要素の有機的な結びつきを発見し、持続的に発展していく新しいコミュニティの創成について共に考えます。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

II-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

特に指定しない。

○参考書

視聴覚資料を含め、授業のなかで多数紹介します。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	授業の進め方、受講の留意事項等	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
2	ソーシャルデザインという考え方	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
3	SDGs (Sustainable Development Goals)	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
4	映像を通じて考える	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
5	デザインのための思考	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
6	政策形成とソーシャルデザイン（外来講師と共同）	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
7	地域医療とソーシャルデザイン	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
8	メディアとソーシャルデザイン（外来講師と共同）	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
9	故郷の課題と未来を考える	山 邊 昭 則	学生生活支援センター
10	授業全体のまとめ	山 邊 昭 則	学生生活支援センター

○評価の方法

学習プロセスの形成的評価と課題による総括的評価。（期末試験は実施しません。）

○履修上の注意

出席と授業への主体的な姿勢を重視します。

○フィードバックの方法

全体的講評、個別質問への対応、模範的フィードバックの共有等。

○準備学修（予習・復習）

各回のテーマの事前調査（90分）と事後考察（90分）を行う。

〔L12〕 自然系科目

自然系科目一覧

科目番号／授業科目	責任者	学期／曜／時限	授業形態	単 位	定 員	評 価
L1210 医学・医療における数学	奥 田	I・火・3	講 義	1	30	レポート
L1212 基礎数理遺伝学演習	奥 田	II・水・1	演 習	1	30	レポート
L1215 臨床医学と数学	奥 田	A・I・水・5 B・II・水・3	講 義	1	30	レポート
L1216 ゲノム医療がもたらすもの	奥 田	A・I・水・1 B・II・火・1	講 義	1	30	レポート
L1217 パソコン・IT（インターネット）で学ぶゲノム医療	奥 田	II・火・2	講 義	1	30	レポート
L1220-4 光科学の医学・生命科学への応用	佐藤文	II・木・2	講 義	1	20	出席・小テスト・態度
L1220-5 疾病関連タンパク質概論	山 本	II・火・2	講 義	1	20	出席・小テスト・態度
L1241 発生生物学入門	佐藤滋	II・火・2	講 義	1	20	出席・課題
L1242-3 「形」から学ぶヒトの生物学1	菊 地	I・水・1	講 義	1	30	出席・課題
L1242-4 「形」から学ぶヒトの生物学2	菊 地	I・木・3	講 義	1	30	出席・課題
L1243 生物多様性を考える	菊 地	A・II・火・2 B・II・水・3	講 義	1	30	出席・課題
L1245 系統発生学入門	菊 地	II・水・1	講 義	1	30	出席・課題
L1254-1 体育学演習1	板 井	A・I・火・3 B・II・火・1 C・II・火・2	演 習	1	10	レポート・態度 他
L1254-2 体育学演習2	板 井	A・I・木・2 B・I・木・3 C・II・木・1 D・II・木・2	演 習	1	16	レポート・態度 他
L1254-3 体育学演習3	板 井	II・水・1	演 習	1	12	レポート・態度 他
L1254-4 体育学演習4	板 井	II・水・3	演 習	1	12	レポート・態度 他
L1262-1 医療における「学習」と「教育」	浅 田	I・火・3	講 義	1	20	出席・課題・レポート 他
L1262-2 ICT時代の情報活用力	浅 田	A・II・火・1 B・II・火・2	講 義	1	20	出席・課題・レポート 他

科目番号／授業科目		責任者	学期／曜／時限	授業形態	単 位	定 員	評 価
L1263	医療安全のための理論と実践	前 田	Ⅱ・木・2	講 義・ 演 習・ 実 習	1	20	出席・レポート 他
L1270	医薬品研究の歴史	興 水	A・Ⅰ・水・1 B・Ⅰ・水・5	講義・演習	1	30	課題・態度

総合教育科目『数学』科目ガイド

教育目標

- 1) 数学がその技術的側面において医学・医療にどの様にかかわり応用されているかを学ぶ。
- 2) 数学の思想的な面での医学に対する応用について理解し、数学的思考を導入することで、よりエビデンスに基づいた病態の診断・治療を行えることを学ぶ。
- 3) 大学病院だけでなく、保健所、診療所、一般病院、在宅において、自分の発想（考え）に基づいて、患者、患者の家族、同僚医師、コメディカル、行政職をはじめとする多くの関連職種の人々、地域の住民、さらに地域特性などの種々の要因を考慮しつつ、患者一人一人に対応した医療を構築していくためには、数学的思考過程が必要となることを学ぶ（数学者が自分の発想に基づいて様々な条件を設定し、さらに分析を加え理論体系を創ってゆくプロセスを例にして説明する）。
- 4) 「数式とその背後にある発想」を例にし、医学専門用語の背後にある病態生理を自分なりの言葉で理解し、説明できるようにしておくことの重要性を学ぶ。
- 5) ゲノム解析技術の進展により、従来の臓器縦割りの診療のみならず、ゲノム情報に基づいた臓器横断的な医療の展開が期待されている。ゲノム情報の知見の蓄積により、個々の患者それぞれに適切な医療の推進がすすむと考えられている（ゲノム医療）。さらに、インターネット（IT）、パソコン技術の著しい発展は、大学病院などの大規模施設と地域の診療所との情報量を差のないものにする予想される。このような状況をふまえ、パソコン・ITを用いた遺伝情報（ゲノム情報）の取得方法を学ぶとともにその理論的背景を解説する。さらに、今後、進展するであろうゲノム医療の「光」と「影」について共に議論を深めたいと考えている。
- 6) ベイズの定理の歴史的背景・基礎理論にふれ、臨床医学とベイズの定理のかかわりについて学ぶ。
- 7) 確率・統計学は、臨床医学・医学研究において、重要な位置を占めている。確率・統計学について基本的な概念を説明し、遺伝医学・ゲノム医療領域（数理遺伝学）を中心に確率・統計学がどのように応用されているか講義する。ゲノムの構造解析や高速ゲノム配列探索ツール（BLAST）の数学的基礎理論を学ぶとともに、パソコン・ITで実践（供覧）する。
- 8) 現在の臨床医学にとって必要不可欠であるCT・MRI・超音波診断などの画像診断について、画像を構成するための基礎となるフーリエ解析について説明するとともに、実際の超音波診断装置にふれる機会を提供したいと考えている。

科目の構成

- 1) 医学・医療における数学
- 2) パソコン・IT（インターネット）で学ぶゲノム医療
- 3) 基礎数理遺伝学演習
- 4) ゲノム医療がもたらすもの
- 5) 臨床医学と数学

備 考

数学の予備知識の総括は基本的に「医学・医療における数学」でおこなうが他の時間においてもその都度説明する。新しく数式が必要な場合は、その時間内に数学的説明を加える。医学の専門用語についても分かりやすく説明する。

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 2 1 0	医学・医療における数学	奥 田 浩	1 学 年

○開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [A]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

- 1) 医学・医療と数学とのかかわりを学び医学・医療における「数値」の重要性を理解する。
- 2) 自然数・整数・有理数・無理数・実数・複素数を次元という新たな視点で理解する。
- 3) 複素数の視点に立って、高校までの数学を展望する。
- 4) 連続・収束・微分・積分などが、どのような基礎概念（特に「不等式」の概念に注目して）に基づいて証明され、確立されてきたか歴史的背景をふまえて理解する。
- 5) 臨床医学にとって重要なベイズの定理を学ぶ。
- 6) 数学の発展をもたらした基礎概念が、現在の臨床医学の中にどのように生かされているかを理解する。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

II-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

プリント等を準備する。

○参考書

講義内で提示する。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	医学・医療と数学のかかわり/臨床医学・医学研究と「数値」について	奥 田 浩	数 学
2	複素数入門：数の概念の拡張と「次元」	奥 田 浩	数 学
3	ガウスの定理と3次方程式の解の公式	奥 田 浩	数 学
4	「等式」から「不等式」へ	奥 田 浩	数 学
5	「不等式」による収束・極限の理解	奥 田 浩	数 学
6	実数の性質と連続（中間値の定理の証明）	奥 田 浩	数 学
7	微分・積分とはなにか（平均値の定理・テーラーの定理の証明）	奥 田 浩	数 学
8	「不等式」によるロピタルの定理の証明	奥 田 浩	数 学
9	ベイズの定理と臨床医学	奥 田 浩	数 学
10	臨床医学の中に生きている数学的基礎概念	奥 田 浩	数 学

○評価の方法

レポート

○履修上の注意

数学・臨床医学などの予備知識は時間内に丁寧に説明します。新しく数式が必要な場合は、その時間内に数学的説明を加えます。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

ムードル上に掲載した資料と講義内で配布した資料の下調べをする（予習120分・復習60分）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 2 1 2	基礎数理遺伝学演習	奥 田 浩	1 学 年

○開講時期 [2] 学期 [水・1] 時限 [H]

○授業形式 演習

○履修定員 [30] 名

○ねらい

- 1) (分子) 遺伝学の基礎知識・歴史と遺伝現象の本質を担っている減数分裂について学ぶ。
- 2) 臨床医学に必須である家系図作成の基礎を学習し、実際に家系図を作成する。
- 3) 様々なメンデル遺伝病、臨床医学にとって重要なベイズの定理を学ぶ。
- 4) 保因者について学ぶとともにベイズの定理を用いて保因者のリスクを計算する。
- 5) コンピューター・IT (インターネット) を用いた遺伝子探索と分子系統樹の作成を実際に行う。
- 6) 臨床遺伝学において遺伝カウンセリングをおこなう際の数学的基礎を学ぶ。
- 7) 相談者が遺伝病をきたす病因遺伝子を有していた場合、遺伝カウンセリングにおいて、相談者にどのように説明をしてゆけばよいのか議論・意見交換を行う。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

II-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

プリント等を準備する。

○参考書

演習内で提示する。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	数理遺伝学の歴史・遺伝とはなにか	奥 田 浩	数 学
2	染色体・ゲノム・DNA・RNA・アミノ酸の基礎知識	奥 田 浩	数 学
3	減数分裂とゲノム多様性	奥 田 浩	数 学
4	確率・統計の基礎知識	奥 田 浩	数 学
5	家系図作成とメンデル遺伝病	奥 田 浩	数 学
6	家系図作成の演習とベイズの定理	奥 田 浩	数 学
7	保因者のリスク計算 1	奥 田 浩	数 学
8	保因者のリスク計算 2	奥 田 浩	数 学
9	遺伝カウンセリングの実践	奥 田 浩	数 学
10	パソコンによる遺伝情報の取得と分子系統樹の作成	奥 田 浩	数 学

○評価の方法

レポート

○履修上の注意

高校の時に生物を履修していない人や数学の不得意な人にも理解できるような内容にする予定です。座学だけでなく、パソコン・インターネット (IT) を用いて視覚化し、学習しやすくする予定です。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修 (予習・復習)

ムードル上に掲載した資料と演習内で配布した資料の下調べをする (予習120分・復習60分)。

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 2 1 5	臨床医学と数学	奥 田 浩	1 学 年

- 開講時期 〔1〕 学期〔水・5〕 時限〔C〕
 〔2〕 学期〔水・3〕 時限〔I〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔30〕 名

○ねらい

- 1) 数学が臨床医学（特に画像診断）に、どのようにかわり応用されているかを学ぶ。
- 2) 病気の診断における、超音波診断・CT・MRIなどの画像診断の数学的原理の理解の重要性を学ぶ。 実際の超音波診断装置を体験する。
- 3) 画像を構築するための数学的基礎となるフーリエ解析について理解する。
- 4) ベイズの定理の歴史的・数学的背景を理解し、臨床医学において重要である病気の診断過程において、ベイズの定理が果たしている役割を学ぶ。
- 5) 臨床医学にとって重要なベイズの定理の応用例として、臨床疫学（感度・特異度・陽性的中率・陰性的中率）・臨床遺伝（遺伝カウンセリング）を題材として解説する。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅱ-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

プリント等を準備する

○参考書

講義内で提示する

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	臨床医学における画像診断	奥 田 浩	数 学
2	画像の構築とフーリエ解析 1	奥 田 浩	数 学
3	画像の構築とフーリエ解析 2	奥 田 浩	数 学
4	CT・MRIの数学的基礎理論	奥 田 浩	数 学
5	超音波診断法の数学的理論（超音波診断装置の供覧と体験）	奥 田 浩	数 学
6	確率・統計の基礎	奥 田 浩	数 学
7	ベイズの定理の歴史的背景と基礎理論	奥 田 浩	数 学
8	臨床疫学とベイズの定理	奥 田 浩	数 学
9	臨床遺伝とベイズの定理	奥 田 浩	数 学
10	臨床診断過程とベイズの定理	奥 田 浩	数 学

○評価の方法

レポート

○履修上の注意

数学（確率・統計・ベイズの定理）・基礎医学・臨床医学などの予備知識は時間内に丁寧に説明します。講義中に実際の超音波診断装置を供覧し体験してもらう予定です。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

ムードル上に掲載した資料と講義内で配布した資料の下調べをする（予習120分・復習60分）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 2 1 6	ゲノム医療がもたらすもの	奥 田 浩	1 学 年

- 開講時期 [1] 学期 [水・1] 時限 [B]
[2] 学期 [火・1] 時限 [F]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

- 1) 遺伝学の歴史・基礎知識を学ぶとともにゲノムの概念について理解する。
- 2) 数理遺伝モデルの構成のために重要である確率・確率変数・確率分布・2項分布について学ぶ。
- 3) 遺伝的変異（多様性）を理解するとともに、その同定法（PCR法・シーケンス法）について学ぶ。
- 4) パソコン・IT（インターネット）を用いた遺伝情報（ゲノム情報）の取得方法を学ぶ。
- 5) ゲノム医療（および癌ゲノム医療）について理解するとともに、ゲノム医療の「光」と「影」について学ぶ。
- 6) 保因者について学ぶとともに、ベイズの定理を用いて保因者のリスク（確率）を算出する。
- 7) ゲノム医療における遺伝カウンセリングの重要性を学ぶ。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅱ-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

プリント等を準備する。

○参考書

講義内で提示する。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	ゲノムの基礎知識	奥 田 浩	数 学
2	遺伝（減数分裂）の基礎知識	奥 田 浩	数 学
3	遺伝的変異（多様性）の同定法（PCR法など）	奥 田 浩	数 学
4	数理遺伝モデルと2項分布	奥 田 浩	数 学
5	確率とベイズの定理	奥 田 浩	数 学
6	パソコン・ITを用いたゲノム情報の取得	奥 田 浩	数 学
7	ゲノム医療とは何か	奥 田 浩	数 学
8	癌ゲノム医療とは何か	奥 田 浩	数 学
9	ゲノム医療の「光」と「影」を議論する	奥 田 浩	数 学
10	ゲノム医療と遺伝カウンセリング	奥 田 浩	数 学

○評価の方法

レポート

○履修上の注意

次世代シーケンサーなどのゲノム解析技術の進展によりもたらされたゲノム情報（ゲノム情報の多様性）に基づく医療（ゲノム医療）について提示します。高校の時に生物を履習していない人や数学の不得意な人にも理解できるような内容にする予定です。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

ムードル上に掲載した資料と講義内で配布した資料の下調べをする（予習120分・復習60分）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 2 1 7	パソコン・IT（インターネット） で学ぶゲノム医療	奥 田 浩	1 学 年

○開講時期 〔2〕学期〔火・2〕時限〔G〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔30〕名

○ねらい

- 1) 遺伝学の歴史・基礎知識を学ぶとともにゲノムの概念とゲノム医療について理解する。
- 2) パソコン・IT（インターネット）を用いた遺伝情報（ゲノム情報）の取得方法を学ぶ。
- 3) 世界3大遺伝情報バンク（NCBI（米国）・DDBJ（日本）・EMBL（欧州））にアクセスしゲノム情報等
を取得する。
- 4) 世界3大遺伝情報バンクに共通の高速ゲノム配列探索ツール（BLAST）について、理論・実践を学ぶ。
- 5) 地域医療におけるパソコン・IT（インターネット）による情報収集の重要性を学ぶ。
- 6) 進化距離の概念・理論を学び、パソコンにより分子系統樹（ウイルス・細菌・動植物等）を作成する。
- 7) パソコンによるゲノムの構造解析を実践するとともにその理論的背景を学ぶ。
- 8) ゲノム情報解析に必要な数理遺伝学（確率・遺伝統計・2項分布・ポアソン分布・正規分布等）を学ぶ。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅱ-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

プリント等を準備する。

○参考書

講義内で提示する。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	ゲノムと遺伝学の基礎知識 1	奥 田 浩	数 学
2	ゲノムと遺伝学の基礎知識 2	奥 田 浩	数 学
3	確率と数理遺伝モデル	奥 田 浩	数 学
4	パソコン・IT（インターネット）によるゲノム情報の登録と収集	奥 田 浩	数 学
5	世界3大遺伝情報バンク（NCBI・DDBJ・EMBL）へのアクセスと情報収集	奥 田 浩	数 学
6	高速ゲノム配列探索ツール（BLAST）の理論と実践	奥 田 浩	数 学
7	進化距離（遺伝距離）の理論について	奥 田 浩	数 学
8	分子系統樹の基礎理論とパソコンによる分子系統樹の作成	奥 田 浩	数 学
9	ゲノム構造の数理解析理論とパソコンによるゲノムの構造解析の実践	奥 田 浩	数 学
10	地域医療におけるパソコン・ITによる情報収集の重要性	奥 田 浩	数 学

○評価の方法

レポート

○履修上の注意

パソコン・IT（インターネット）によるゲノム情報の収集・解析の方法とその重要性について提示します。
高校の時に生物を履習していない人や数学の不得意な人にも理解できるような内容にする予定です。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

ムードル上に掲載した資料と講義内で配布した資料の下調べをする（予習120分・復習60分）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1220-4	光科学の医学・生命科学への応用	佐藤文菜	1 学年

○開講時期 〔2〕学期〔木・2〕時限〔K〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔20〕名

○ねらい

医学・生命科学の諸分野には、多数の光科学的現象が関わっており、それに付随した技術が治療や診断、及び研究に利用されている。本講義では、生体の光に対する応答、生体分子と光の相互作用、光学的計測の基礎等を学び、診療と医学研究に関わる光利用の原理を広く理解することを目的とする。ここで光とは、紫外光、可視光、赤外光、X線、 γ 線などである。一部、光には該当しないが、電子線や粒子線も合わせて紹介する。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅱ-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

必要に応じて資料配布

○参考書

医歯系の物理学（東京教学社）、放射線治療物理学（文光堂）、タンパク質のX線結晶解析法（J・ドレント著、シュプリンガー）、他、講義中に紹介する。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	光科学の基礎 ～光とは～	佐藤文菜	生物物理学
2	光の方程式（波動方程式を導く）	佐藤文菜	生物物理学
3	紫外・可視・赤外光の医学利用	佐藤文菜	生物物理学
4	レーザー光の基礎	佐藤文菜	生物物理学
5	レーザー光の医学利用	佐藤文菜	生物物理学
6	X線・ γ 線の基礎と医学利用	佐藤文菜	生物物理学
7	放射線の基礎と医学利用	佐藤文菜	生物物理学
8	光科学を用いた生命科学研究紹介 1	佐藤文菜	生物物理学
9	光科学を用いた生命科学研究紹介 2	佐藤文菜	生物物理学
10	まとめ	佐藤文菜	生物物理学

○評価の方法

講義後の小問題、出席、受講態度

○履修上の注意

板書も併用するため、ノートかメモを取ってください

○フィードバックの方法

各小問題の解法と正解は、次の回の講義で解説する。

○準備学修（予習・復習）

参考書内の関連項目を読む（予習、復習合わせて180分程度）

適切な参考書が無い場合は、他の方法を用いて下調べなどを行う。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1220-5	疾病関連タンパク質概論	山本直樹	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [火・2] 時限 [G]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

遺伝子翻訳の産物であるタンパク質は生命活動の根幹を成す物質であり、疾病発症原理を理解して臨床応用につなげるためには、関連するタンパク質の機能や構造についての理解が不可欠です。本講義では、がん、白血病、HIV、アルツハイマー病などの疾患、またCOVID-19等のタイムリーな話題を取り上げ、タンパク質異常と疾患の関係性をできるだけやさしく解説します。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

II-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

必要に応じて資料を配布します。

○参考書

分子細胞生物学 第7版 石浦 章一ら 訳 東京化学同人
 ワインバーグ がんの生物学 武藤 誠・青木 正博 訳 南江堂
 カラー図解 免疫学の基本がわかる事典 鈴木 隆二 西東社
 病気がみえる vol.5 血液 メディックメディア
 病気がみえる vol.7 脳 メディックメディア
 カラーイラストで学ぶ 集中講義 病理学 清水 道生・内藤 善哉 編集 メジカルビュー社
 ハリソン内科学 第5版 福井 次矢・黒川 清 監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	タンパク質の基本的な話	山本直樹	生物物理学
2	アミノ酸変異がもたらす生体機能異常	山本直樹	生物物理学
3	がん発症の分子論 1	山本直樹	生物物理学
4	がん発症の分子論 2	山本直樹	生物物理学
5	遺伝子変異が起こる仕組み	山本直樹	生物物理学
6	白血病	山本直樹	生物物理学
7	免疫概論	山本直樹	生物物理学
8	免疫関連疾患	山本直樹	生物物理学
9	アミロイドーシスと神経変性疾患	山本直樹	生物物理学
10	治療法の現在と未来	山本直樹	生物物理学

○評価の方法

毎講義の最後に内容を確認する目的で簡単な小テストを実施するとともに、質問やコメントを自由に記述してもらいます。それらに出席率および受講態度を合わせて総合的に判断します。

○履修上の注意

1 学期の復習も兼ねて、生命現象のセントラルドグマなど基本的な部分から解説する予定です。タンパク質の構造や機能異常がどのように疾患に関連しているか、興味があれば受講を検討してみてください。

○フィードバックの方法

講義ごとの質問やコメントに対して、できるだけ回答します。

○準備学修（予習・復習）

講義前にmoodle上で講義資料をアップロードするので、目を通して予習することを推奨します。また、講義後に理解が不足していると感じた部分については、参考書等を用いて復習してください。（180分）

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 2 4 1	発生生物学入門	佐 藤 滋	1 学 年

○開講時期 [2] 学期 [火・2] 時限 [G]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

「わたしはどうやって生まれてきたの？」という問いにみなさんはどう答えるでしょうか？ 1つの受精卵から様々な細胞や器官、形が生み出される現象を「発生」といいますが、本科目では「ヒトの発生＝わたしたち自身のはじまり」について、その面白さや奥深さを知ってほしいと思います。そのため、発生の仕組みを解説した科学読み物を教科書として使って授業を進めます。また、生きた胚や組織を観察したり、第一線で活躍する外来講師から最先端の話題や研究生活について直接話を聞く機会を設けています。先天異常、癌や老化について学び、再生医療や生命倫理についてみなさんが考えるために、また、必修科目「発生学」の修得にも有用です。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅱ-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

ジェイミー・A・ディヴィス著、橘明美訳「人体はこうしてつくられる」（紀伊國屋書店）

○参考書

阿形清和・高橋淑子監訳「ギルバート発生生物学」（MEDSci）

安田峯男・山田重人訳「ラングマン人体発生学 第11版」（MEDSci）

赤坂甲治「進化生物学 -ゲノミクスが解き明かす進化」（裳華房）

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	現代の発生生物学	佐 藤 滋	循環病態・代謝学
2	初期発生とシグナル伝達	佐 藤 滋	循環病態・代謝学
3	器官形成とニワトリ胚の観察	佐 藤 滋	循環病態・代謝学
4	神経系の発生	高 橋 将 文	解剖学
5	神経堤の発生	高 橋 将 文	解剖学
6	四肢の発生	佐 藤 滋	循環病態・代謝学
7	生殖器系の発生	佐 藤 滋	循環病態・代謝学
8	心臓の再生	木 村 航	外 来 講 師
9	幹細胞からの臓器作製	佐 藤 滋	循環病態・代謝学
10	大きさとバランスの制御	佐 藤 滋	循環病態・代謝学

○評価の方法

出席、授業毎に配布する簡易な課題シートによる。

○履修上の注意

履修や学習内容に関する質問はメール（佐藤 ssato@jichi.ac.jp）でも受け付けます。

○フィードバックの方法

課題シートにコメントを記入し、返却する。

○準備学修（予習・復習）

教科書を読む（予習120分）。課題シートを完成させる（復習60分）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1242-3	「形」から学ぶヒトの生物学1	菊地元史	1 学年

○開講時期 〔1〕学期〔水・1〕時限〔B〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔30〕名

○ねらい

自分自身の体の中にある臓器の「形」や大きさをどの程度イメージできるだろうか。生物のもつ「形」を観察し、また、「形」から機能を考える科学的手法を形態学という。生物の「形」は、その一つひとつが意味をもっている。ここでは、ヒトの体の外と中とを俯瞰し、人体の成り立ち（すなわち構造と機能）をイメージできるようになることを目標とする。あまり専門的な用語等にはこだわらず、医学の入り口に立った皆さんに相応しい内容としたい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅱ-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

プリントを配布する。

○参考書

授業の中で紹介する。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	人体のあらまし	菊 地 元 史	自 然 史 学
2	からだをつくる細胞・組織	菊 地 元 史	自 然 史 学
3	栄養の摂取Ⅰ 消化管	菊 地 元 史	自 然 史 学
4	〃 Ⅱ 肝胆膵	菊 地 元 史	自 然 史 学
5	呼 吸	菊 地 元 史	自 然 史 学
6	体液と循環Ⅰ 循環器	菊 地 元 史	自 然 史 学
7	〃 Ⅱ 血 液	菊 地 元 史	自 然 史 学
8	体液の調節と排泄Ⅰ 腎臓・排尿路	菊 地 元 史	自 然 史 学
9	〃 Ⅱ 体液の調節	菊 地 元 史	自 然 史 学
10	まとめ	菊 地 元 史	自 然 史 学

○評価の方法

出席および授業時間内での課題

○履修上の注意

抽選となった場合、「形」から学ぶヒトの生物学2（1学期〔木・3〕）と併せて希望する者を優先する。

○フィードバックの方法

提出された課題に対して総評をする。

○準備学修（予習・復習）

授業で提示する資料を用いて、各自の興味を基づいた発展学習をする（3時間相当）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1242-4	「形」から学ぶヒトの生物学2	菊地元史	1 学年

○開講時期 〔1〕学期〔木・3〕時限〔E〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔30〕名

○ねらい

自分自身の体の中にある臓器の「形」や大きさをどの程度イメージできるだろうか。生物のもつ「形」を観察し、また、「形」から機能を考える科学的手法を形態学という。生物の「形」は、その一つひとつが意味をもっている。ここでは、ヒトの体の外と中とを俯瞰し、人体の成り立ち（すなわち構造と機能）をイメージできるようになることを目標とする。あまり専門的な用語等にはこだわらず、医学の入り口に立った皆さんに相応しい内容としたい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅱ-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

プリントを配布する。

○参考書

授業の中で紹介する。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	からだの支持と運動Ⅰ 骨 格	菊 地 元 史	自 然 史 学
2	からだの支持と運動Ⅰ 筋	菊 地 元 史	自 然 史 学
3	内部環境の調節 内分泌・自律神経	菊 地 元 史	自 然 史 学
4	情報の受容と処理Ⅰ 神経の概論・中枢神経	菊 地 元 史	自 然 史 学
5	Ⅱ 感覚器	菊 地 元 史	自 然 史 学
6	からだを守るしくみⅠ 皮膚・体温調節	菊 地 元 史	自 然 史 学
7	Ⅱ 免 疫	菊 地 元 史	自 然 史 学
8	生殖、発生、老化Ⅰ 生殖器	菊 地 元 史	自 然 史 学
9	Ⅱ 発生・成長・老化	菊 地 元 史	自 然 史 学
10	まとめ	菊 地 元 史	自 然 史 学

○評価の方法

出席および授業時間内での課題

○履修上の注意

抽選となった場合、「形」から学ぶヒトの生物学1（1学期〔水・1〕）と併せて希望する者を優先する。

○フィードバックの方法

提出された課題に対して総評をする。

○準備学修（予習・復習）

授業で提示する資料を用いて、各自の興味を基づいた発展学習をする（3時間相当）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 2 4 3	生物多様性を考える	菊 地 元 史	1 学 年

- 開講時期 [2] 学期 [火・2] 時限 [G]
[2] 学期 [水・3] 時限 [I]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

40億年とも言われる長い歴史の中で、生物は変異を重ねつつ命を継ぐことによって次第にその多様性を増してきた。その結果として、今の豊かな生物相は存在する。別の見方をすれば、私たちヒトを含め現在みられる生命の一つひとつは、原始の生命から途切れることなく受け継がれてきたものなのである。一方で、今、種の絶滅の速度が分化の速度を遥かに凌ぐようになってしまった現実も見つめなければならない。この授業では、生物の多様性がどのようにしてできてきたのか、現在どのように成り立っているのかを科学的に提示する。本講義の修了時には、生物多様性がどうして大切なのかという問いに各自の考えをもってほしい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅱ-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

プリントを配布する。

○参考書

授業の中で紹介する。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	序 論	菊 地 元 史	自 然 史 学
2	いろいろな生物 その1	菊 地 元 史	自 然 史 学
3	いろいろな生物 その2	菊 地 元 史	自 然 史 学
4	いろいろな生物 その3	菊 地 元 史	自 然 史 学
5	多様性を整理する方法	菊 地 元 史	自 然 史 学
6	生命の歴史と多様性	菊 地 元 史	自 然 史 学
7	多様性が生まれる原理	菊 地 元 史	自 然 史 学
8	生物間の相互作用	菊 地 元 史	自 然 史 学
9	多様性を守る	菊 地 元 史	自 然 史 学
10	まとめ	菊 地 元 史	自 然 史 学

○評価の方法

出席および授業時間内での課題

○履修上の注意

特になし

○フィードバックの方法

提出された課題に対して総評をする。

○準備学修（予習・復習）

授業で提示する資料を用いて、各自の興味を基づいた発展学習をする（3時間相当）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 2 4 5	系統発生学入門	菊 地 元 史	1 学 年

○開講時期 [2] 学期 [水・1] 時限 [H]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

我々の身体は、原始の生命に始まり、40億年とされる長い歴史をかけて少しずつ変化を重ねて現在の形に至った。その過程（系統発生）に目を向けることによって、「ヒト」についての理解もまた驚くほど深まるだろう。例えば、どうして呼吸器と消化器は、咽頭で交差する「不都合な」構造になっているのだろうか。また、どうして聴覚と平衡覚を内耳が司るのだろうか。本科目では、これらの疑問に答える系統発生学という概念を身につけることを目標とする。学んだことを基として、病気が何故あるのかという問題を考えてみて欲しい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

II-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

プリントを配布する。

○参考書

授業の中で紹介する。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	生命とは何だろう	菊 地 元 史	自 然 史 学
2	ヒトへの40億年の道のり 1	菊 地 元 史	自 然 史 学
3	ヒトへの40億年の道のり 2	菊 地 元 史	自 然 史 学
4	器官系の系統発生 1（感覚器）	菊 地 元 史	自 然 史 学
5	器官系の系統発生 2（呼吸器）	菊 地 元 史	自 然 史 学
6	器官系の系統発生 3（循環器・泌尿器）	菊 地 元 史	自 然 史 学
7	器官系の系統発生 4（消化器）	菊 地 元 史	自 然 史 学
8	器官系の系統発生 5（神経・運動器）	菊 地 元 史	自 然 史 学
9	器官系の系統発生 6（性とは）	菊 地 元 史	自 然 史 学
10	まとめ	菊 地 元 史	自 然 史 学

○評価の方法

出席および課題

○履修上の注意

上記の授業項目は受講者の興味に合わせて適宜変更する。受講に条件はないが、「L1243 生物多様性を考える」とは重複する部分が多い。併せて選択する場合、この点を承知しておくこと。

○フィードバックの方法

提出された課題に対して総評をする。

○準備学修（予習・復習）

授業で提示する資料を用いて、各自の興味を基づいた発展学習をする（3時間相当）。

総合教育科目『保健体育』科目ガイド

○教育目標

運動は「からだ」をより良く理解するために大切な身体の活動です。医師になろうとしている皆さんには、まず「からだ」に興味を持ち、「からだの声」に耳を傾ける力を養う必要があると考えます。

「からだの声」は「いのちの声」に直結していると考えます。

また気分転換やストレスの発散、学友と交流を深める場として、さらにはより良い人格形成を促す場としても体育は格好の科目であるといえましょう。

単に丈夫で体力があるとか、運動やスポーツが得意であれば「それで良し」ということにはなりません。部活で好成績を収めたばかりに天狗になり了見が狭く（人を馬鹿にするように）なっていないですか。逆にスポーツが苦手なばかりに、運動から得られる喜びに気づいていないことはありませんか。とくに自治医大生にとっての体育では、身体の構造や動きを理解し動作の特性を冷静に分析できる能力を養っていく必要があると考えます。才能やカンだけに頼らない運動能力を身につけたいということです。

一方、複雑な思考やストレスを忘れてスカッとすることも運動の効用です。運動・スポーツが「できる」という主観と、「何故できるのか」「どうしたらできるようになるのか」といった客観の間をバランスよく行き来できる思考に加え、QOL向上のために運動を利用していく能力が必要であると思うのです。

そのためには「からだの声」に耳を傾け「からだで考える」ことができる力を身につけることが大切になります。そのうえで、スポーツがより上手くできるようになったり、運動することの喜びを感じることが出来るようになってほしいと願っています。

○科目の解説

分 科 名	開 講 時 期	主 な 内 容
体育学演習1	1・2学期：火曜日	「トレーニング」を教材とする。自己流のトレーニングは効果が低いか危険を伴うことがある。正しい体のさばき方を身につけることが大切である。 2学期は男女別クラスに分けて実施する。
体育学演習2	1・2学期：木曜日	「硬式テニス」を教材とする。テニスは生涯体育として相応しい種目の一つである。ゲームを楽しむことのできる基礎を身につける。
体育学演習3	2学期：水曜日	「ゴルフ」を教材とする。ゴルフは生涯体育として相応しい種目の一つである。スウィングの基礎を身につける。
体育学演習4	2学期：水曜日	様々なスポーツを実施する中で運動に対する認識を深める。「ゆるいスポーツ」も大切な運動である。また、授業でなければやってみることのないスポーツにも挑戦する。

【1 学期】

時 限	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日
1 時限			
2 時限			L1254- 2 A 【体育学演習 2】
3 時限	L1254- 1 A 【体育学演習 1】	L2301A 【総合体育演習A】（必修）	L1254- 2 B 【体育学演習 2】
4 時限		L2301B 【総合体育演習B】（必修）	
5 時限			

【2 学期】

時 限	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日
1 時限	L1254-1B 【体育学演習 1】 男子クラス	L1254- 3 【体育学演習 3】	L1254- 2 C 【体育学演習 2】
2 時限	L1254- 1 C 【体育学演習 1】 女子クラス		L1254- 2 D 【体育学演習 2】
3 時限		L1254- 4 【体育学演習 4】	
4 時限			
5 時限			

科目番号	科目名	責任者	学年
L1254-1	体育学演習1	板井美浩	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [A]
[2] 学期 [火・1] 時限 [F]
[2] 学期 [火・2] 時限 [G]

○授業形式 演習

○履修定員 [10] 名

○ねらい

「レジスタンス・トレーニング」を教材として身体に関する考察を深める。バーベルやダンベルといったフリーウェイトや種々のトレーニング機器、あるいは器具を用いない自重トレーニングの正しい方法を理解し、また身体の構造を意識して安全にトレーニングを行っていくことのできる基礎的能力を身につける。経験者においては、行ってきたトレーニングの正誤およびトレーニングの意義について認識を新たにし、発展的なトレーニングを実施することのできる能力を養う。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-3 自己評価と研鑽

○教科書

特に指定しない。資料プリントを配布する。

○参考書

特に指定しない。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	導入 施設・器具使用上の注意	板井美浩	保健体育
2	自重・バランス器具と身体意識	板井美浩	保健体育
3	トレーニングマシンと身体意識	板井美浩	保健体育
4	フリーウェイトと身体意識	板井美浩	保健体育
5	統合的身体操法のトレーニング（パワークリーン） その1	板井美浩	保健体育
6	その2	板井美浩	保健体育
7	その3	板井美浩	保健体育
8	その4	板井美浩	保健体育
9	その5	板井美浩	保健体育
10	まとめ パワークリーン最大挙上重量測定 レポート作成	板井美浩	保健体育

○評価の方法

「パワークリーン」動作の習熟度およびレポート。態度評価を加味する。

○履修上の注意

- 2学期は、男子クラス（1時限）と女子クラス（2時限）に分けて実施する。
- 履修希望者が2名に満たないときは開講を見合わせる場合がある。
- ATLAS ARENA（トレーニングルーム）で実施する。屋内運動靴、運動着は各自用意すること。

○フィードバックの方法

- 学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

- レジスタンストレーニングについて、テキストや動画で学習する（予習30分、復習30分）。
- 自主トレーニングを実施する（120分／週）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1254-2	体育学演習2	板井美浩	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [D]
[1] 学期 [木・3] 時限 [E]
[2] 学期 [木・1] 時限 [J]
[2] 学期 [木・2] 時限 [K]

○授業形式 演習

○履修定員 [16] 名

○ねらい

「硬式テニス」を教材として身体に関する考察を深める。テニスはラケット（道具）を介在してボールを打つという身体操法が必要である。初心者は予想と乖離したボールの挙動に驚き、さらにテニスは対人スポーツであることから相手の打ち返したボールに対応することができず、しばしば向上の意欲を失ってしまうことがある。この授業では、ラケットやボール扱いについて挫折することなく乗り越えられる課題から始めてテニスに身体を慣らし、ゲームをすることの楽しさを味わえるようになってほしい。一方、熟練の経験者においては、自身の身体感覚を相手に伝える訓練と、身体に染みついた動きの癖と向き合い、新たな身体のさばき方を模索してほしい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-3 自己評価と研鑽

○教科書

特に指定しない。

○参考書

特に指定しない。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	導入 ラケット・ボールの特性	板井美浩	保健体育
2	ボール慣れ ミニゲーム	板井美浩	保健体育
3	ストローク ミニゲーム	板井美浩	保健体育
4	ショートラリー ポイントの数え方	板井美浩	保健体育
5	サーブ 2バウンドゲームその1	板井美浩	保健体育
6	ロングラリー その2	板井美浩	保健体育
7	球出し ストローク その3	板井美浩	保健体育
8	球出し ボレー その4	板井美浩	保健体育
9	サーブ ゲーム	板井美浩	保健体育
10	まとめ ゲーム レポート作成	板井美浩	保健体育

○評価の方法

身体のさばき方に対する理解と習熟度およびレポート。態度評価を加味する。

○履修上の注意

- テニスコート（西側オムニコート）あるいはATLAS ARENA（メインアリーナ）で実施する。
- 屋外・屋内用運動靴、運動着は各自用意すること。その他、授業で使用する用具は概ね大学で用意するが、私物のラケットを使用してもよい。

○フィードバックの方法

- 学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

- テニスに関するテキストや動画で学習する（予習30分、復習30分）。
- ラケットとボールを用いて自主練習をする（120分／週）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1254-3	体育学演習3	板井美浩	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [水・1] 時限 [H]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

「ゴルフ」を教材として身体に関する考察を深める。ゴルフは三世代にわたる年齢層でも対等に楽しむことができる稀なスポーツである。この授業を通して生涯体育を実践するための基礎的手段を身につけてほしい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-3 自己評価と研鑽

○教科書

特に指定しない。

○参考書

特に指定しない。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	導入 ルール・マナー 用具の説明	板井美浩	保健体育
2	ミドルアイアン ハーフスイング	板井美浩	保健体育
3	ミドルアイアン フルスイング	板井美浩	保健体育
4	ミドルアイアン フルスイング	板井美浩	保健体育
5	ドライバー ハーフ～フルスイング	板井美浩	保健体育
6	ショートアイアン ハーフ～フルスイング	板井美浩	保健体育
7	アプローチ 転がす	板井美浩	保健体育
8	アプローチ 上げてとめる	板井美浩	保健体育
9	パター	板井美浩	保健体育
10	まとめ ショートゲーム レポート作成	板井美浩	保健体育

○評価の方法

身体のさばき方に対する理解と習熟度およびレポート。態度評価を加味する。

○履修上の注意

●初回は、ATLAS ARENA（メインアリーナ）で実施する。

●2回目以降は、授業項目の内容や天候によりATLAS ARENA（メインアリーナ）あるいはグラウンドで実施する。

●屋内・屋外用運動靴、運動着は各自用意すること。その他、授業で使用する用具は概ね大学で用意するが、私物のクラブを使用してもよい。

○フィードバックの方法

●学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

●ゴルフに関するテキストや動画で学習する（予習30分、復習30分）。

●スイングのイメージトレーニングを、身体を動かしながら実施する（120分／週）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1254-4	体育学演習4	板井美浩	1学年

○開講時期 [2] 学期 [水・3] 時限 [1]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

様々なスポーツ種目を体験することで身体に関する考察を深める。授業で実践しなければ一生やることがないかも知れないスポーツを体験してみる。激しく汗をかくことのない（ゆるい）スポーツの奥深さに気づく。この授業を通して、将来、健康教室等の指導をすることになったとき思い出することができるようなヒントを見出してほしい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

特に指定しない。

○参考書

特に指定しない。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	導入 キッズテニス	板井美浩	保健体育
2	水泳・着衣水泳	板井美浩	保健体育
3	サイクリング（下野薬師寺跡周辺）	板井美浩	保健体育
4	サイクリング（下野国分寺跡周辺）	板井美浩	保健体育
5	グラウンドゴルフ	板井美浩	保健体育
6	グラウンドゴルフ	板井美浩	保健体育
7	三角ベースボール	板井美浩	保健体育
8	三角ベースボール	板井美浩	保健体育
9	陸上競技（クラウチングスタート）	板井美浩	保健体育
10	陸上競技（棒高跳）	板井美浩	保健体育

○評価の方法

様々なスポーツに対する受講態度と理解度およびレポート。態度評価を加味する。

○履修上の注意

●初回は、ATLAS ARENA（メイン・アリーナ）で実施する。

●屋外・屋内用運動靴、運動着は各自用意すること。その他、授業で使用する用具は概ね大学で用意するが、自転車は私物を使用してもよい。

○フィードバックの方法

●学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

●授業項目の実施種目に関するテキストや動画で学習する（予習30分、復習30分）。

●授業で体験した種目を通じて表出する自己の振舞いと、他者との関係を反省する（120分／週）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1262-1	医療における「学習」と「教育」	浅田義和	1 学年

○開講時期 〔1〕学期〔火・3〕時限〔A〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔20〕名

○ねらい

医師という立場は生涯、新しい知識やスキルを学び続ける「学習者」であり、同時に学生や後輩、さらには患者や市民への指導を行う「教育者」でもあります。一方、この「学習」や「教育」そのものについて学ぶ機会はほとんどありません。本科目では、入学直後の時期に「学習」と「教育」を再考し、生涯を通じて活用できる能力の習得を目指します。今後の主体的な学びを進めていく礎としてもらえれば幸いです。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅱ-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

鈴木克明・美馬のゆり（編著）. 学習設計マニュアル:「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン. 北大路書房. 2018

○参考書

特になし

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	ガイダンス：学習と教育をとらえ直す	浅田義和	医学教育センター
2	ARCSモデル：学習意欲を高める方略	浅田義和	医学教育センター
3	学習目標：学びのゴール設定	浅田義和	医学教育センター
4	評価方法：学習過程と達成度の評価	浅田義和	医学教育センター
5	協同学習：学習者同士での協力	浅田義和	医学教育センター
6	EdTech：ICTを活用した教育事例	浅田義和	医学教育センター
7	学習分析：教育データの利活用	浅田義和	医学教育センター
8	医療者教育と科学的な教え方・学び方	浅田義和	医学教育センター
9	教育全体の評価と改善	浅田義和	医学教育センター
10	これから求められる学びの主体性	浅田義和	医学教育センター

○評価の方法

出席＋省察（20点分）、課題（40点分）、最終レポート（40点分）：以下の観点で評価します。

【目標行動1】学習や教育に関する基本概念について、用語の意味や具体例を回答できる

【目標行動2】医療教育における学習・教育の知見の活用を、具体例とともに説明できる

【目標行動3】本科目での学びを実際に活用していくための計画をたてることのできる

○履修上の注意

科目内容に関する詳細相談などは yasada@jichi.ac.jp までメールにて問い合わせること。

○フィードバックの方法

課題締め切り後にMoodle上での講評・解説を実施する。また、希望する学生には個別でのフィードバックを加える。

○準備学修（予習・復習）

・配布資料やテキストを読み込む（予習30分・復習30分程度）

・Moodleで提示された課題を実施する（予習60分・復習60分程度）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1262-2	ICT時代の情報活用力	浅田義和	1 学年

- 開講時期 [2] 学期 [火・1] 時限 [F]
[2] 学期 [火・2] 時限 [G]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

ICT (Information and Communication Technology) 時代や人工知能時代といった表現に代表されるように、様々な技術の応用・活用がなされています。医学の専門家（医師）を目指すみなさんにとっても、利用者としてこのような技術に触れる機会が増えてきます。

この科目では、事例を通じて「これからの時代、医療者に求められる情報リテラシー、情報活用力とは何だろうか」を考えていきます。個別のツールの使い方にとどまらず、ICTや人工知能、さらには今後誕生してくる様々な技術を正しく活用していくための基盤となる考え方を身につけていってください。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

II-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

保本正芳. はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス. noa出版 (2022)

○参考書

特になし

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	ガイダンス：情報リテラシー再考	浅田義和	医学教育センター
2	情報の正しさと受発信	浅田義和	医学教育センター
3	データマイニングとテキストマイニング	浅田義和	医学教育センター
4	データマイニングの応用	浅田義和	医学教育センター
5	テキストマイニングの応用	浅田義和	医学教育センター
6	プログラミングとアルゴリズム (1)	浅田義和	医学教育センター
7	プログラミングとアルゴリズム (2)	浅田義和	医学教育センター
8	データ活用に関連する情報倫理	浅田義和	医学教育センター
9	医療におけるICTリテラシー	浅田義和	医学教育センター
10	全体のまとめ	浅田義和	医学教育センター

○評価の方法

出席＋省察 (20点分)、課題 (40点分)、最終レポート (40点分)：以下の観点で評価します。

【目標行動1】 ICTや人工知能といった情報技術に関し、基本概念や用語の意味を説明できる

【目標行動2】 医療分野（診療、教育、研究問わず）におけるICT活用方法を具体例とともに説明できる

【目標行動3】 これから求められる情報リテラシーについて、意見を述べることができる

○履修上の注意

特になし。科目内容に関する詳細相談などは yasada@jichi.ac.jp までメールすること。

○フィードバックの方法

課題締め切り後にMoodle上での解説・講評を行う。また、希望する学生には追加での個別フィードバックを実施する。

○準備学修（予習・復習）

・配布またはMoodleで提示された資料の確認（予習45分・復習45分程度）

・Moodle上の課題を実施（予習30分・復習60分程度）

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 2 6 3	医療安全のための理論と実践	前 田 佳 孝	1 学 年

○開講時期 [2] 学期 [木・2] 時限 [K]

○授業形式 講義・演習・実習

○履修定員 [20] 名

○ねらい

医学知識が豊富で高い技術を持つ優れた医師でも、人間である以上、ヒューマンエラーを起こす。エラーは事故に繋がり、健康になるために来院した患者を傷付け、命を奪う可能性すらある。エラーは「気を付けよう」といった精神論、場当たりの対策では無くせず、その発生メカニズムや人間特性などを理解した上で、エラーを減らす対策、エラーを事故に繋げない対策を講じる必要がある。本科目の目標は、ヒューマンエラー防止のための基礎的な理論・方法を学び、それを日常生活を含む、様々な場で習慣的に実践できる能力を身に付けることである。これらはできる限り早期から習慣付けることが重要であり、本科目が長い医師人生において医療安全を実践するための素地となることを期待する。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

II-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

特になし

○参考書

安全人間工学の理論と技術 ヒューマンエラーの防止と現場力の向上 丸善出版 小松原明哲

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	ガイダンス：ヒューマンエラーの発生メカニズム	前 田 佳 孝	メディカルシミュレーションセンター
2	人間特性とヒューマンエラー：人間の限界を体験する	前 田 佳 孝	メディカルシミュレーションセンター
3	現場改善：大学内の巡視演習	前 田 佳 孝	メディカルシミュレーションセンター
4	医療機器の使いやすさ：評価練習	前 田 佳 孝	メディカルシミュレーションセンター
5	守りやすいルール・マニュアル：作成練習	前 田 佳 孝	メディカルシミュレーションセンター
6	コミュニケーション：指示の出し方／受け方演習	前 田 佳 孝	メディカルシミュレーションセンター
7	チームワーク：チームでエラーをブロックする	前 田 佳 孝	メディカルシミュレーションセンター
8	事故調査・分析Ⅰ：VTAの練習	前 田 佳 孝	メディカルシミュレーションセンター
9	事故調査・分析Ⅱ：連関図の練習	前 田 佳 孝	メディカルシミュレーションセンター
10	事故の未然防止：危険予知トレーニング	前 田 佳 孝	メディカルシミュレーションセンター

○評価の方法

- ・出席点（55点）：グループワークの成果、参加態度を総合評価
- ・最終レポート（45点）

○履修上の注意

授業構成：講義（10分）→グループワーク（60分）

※毎回、様々なテーマに関する安全上の課題発見～対策立案をグループで行います。授業のほとんどをグループワークに費やし、社会人基礎力（主体性、課題発見力、創造力、チームで働く力など）を身につけることも狙いとしています。

○フィードバックの方法

毎回のグループワークの成果については、授業内で講評します。

○準備学修（予習・復習）

- ・授業までに予習用資料を読み、小テストに解答してください（予習90分）。
- ・同資料を使って、授業の復習をしてください（復習90分）。

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 2 7 0	医薬品研究の歴史	興 水 崇 鏡	1 学 年

- 開講時期 [1] 学期 [水・1] 時限 [B]
[1] 学期 [水・5] 時限 [C]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [30] 名

○ねらい

- 1) 医科学への入口として、医薬品がどのように発見され、医学に応用されるようになったかについて、基礎的な事項を学習する。
- 2) 過去に問題を解決した発想を学び、今後に役立てる。
- 3) 科学的探究の歴史から、研究方法の多様性を学ぶ。
- 4) 生体の基礎的な構成と働きを学ぶ。
- 5) 医学研究の素晴らしさに触れる。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅱ-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

講義中に該当項目の印刷物を配布する

○参考書

1) 山崎幹夫：歴史の中の化合物ー薬と医療の歩みをたどるー（東京化学同人）2013年

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	薬の研究100年史概説	興 水 崇 鏡	分 子 薬 理 学
2	ホルモンと薬	興 水 崇 鏡	分 子 薬 理 学
3	受容体という概念	興 水 崇 鏡	分 子 薬 理 学
4	化学合成と創薬	興 水 崇 鏡	分 子 薬 理 学
5	情報伝達機構の利用	興 水 崇 鏡	分 子 薬 理 学
6	感染症との戦い	興 水 崇 鏡	分 子 薬 理 学
7	コンピューターサイエンス	興 水 崇 鏡	分 子 薬 理 学
8	ミラクルドラッグ	興 水 崇 鏡	分 子 薬 理 学
9	作業仮説から薬まで	興 水 崇 鏡	分 子 薬 理 学
10	新しい分子標的を探す	興 水 崇 鏡	分 子 薬 理 学

○評価の方法

指定する課題に答えるとともに、授業への積極的な参加、態度評価を加味する。

○履修上の注意

配布するテキストは和文だけでなく、専門用語の解説を加えながら英文も学ぶ。

○フィードバックの方法

授業の中で解説する

○準備学修（予習・復習）

生命科学の基礎知識についてテキスト資料を理解する。（予習90分、復習90分）

〔L13〕 外国語系科目

外国語系科目一覧

科目番号／授業科目	責任者	学期／曜／時限	授業形態	単 位	定 員	評 価
L1315-7 World Countries and Culture I	R.Dilenschneider	I・火・3	演 習	1	12	出席・態度・試験 他
L1315-8 World Countries and Culture II	R.Dilenschneider	II・火・1	演 習	1	12	出席・態度・試験 他
L1316-7 Critical Thinking	R.Dilenschneider	I・木・2	演 習	1	12	出席・態度・試験 他
L1316-11 English Essay Writing	R.Dilenschneider	II・木・2	演 習	1	12	出席・態度・レポート 他
L1316-13 Reading Concepts: Science & History	R.Dilenschneider	II・木・1	演 習	1	12	出席・態度・試験 他
L1316-14 Reading Concepts: Society & Wellness	R.Dilenschneider	I・水・1	演 習	1	12	出席・態度・試験 他
L1316-15 Music and Lyrics	R.Dilenschneider	II・火・2	講義・演習	1	12	出席・態度・試験 他
L1317-2 Cultural Tendencies of Nihon in English 英語で日本文化	A.J.Lebowitz	A・I・火・3 B・II・火・2	演 習	1	15	出席・態度・レポート 他
L1317-5 Medical Ethics Topics English Discussion 臨床倫理英語 ディスカッション	A.J.Lebowitz	A・I・木・2 B・II・木・1	講義・演習	1	15	出席・態度・レポート 他
L1317-6 Intro to Research Paper Reading 論文読入門	A.J.Lebowitz	A・I・水・5 B・II・水・1	演 習	1	15	出席・態度・レポート 他
L1317-7 Medical History Topics English Discussion 医学史英語ディスカッション	A.J.Lebowitz	A・I・水・1 B・II・火・1	講義・演習	1	15	出席・態度・レポート 他
L1318 英語音声学入門 ～正しい発声を学ぼう～	A.J.Lebowitz	A・I・木・2 B・II・木・2	講義・演習	1	10	出席・試験
L1320-3 はじめてのドイツ語	小 野	I・水・1	講 義	1	20	出席・態度・課題
L1320-4 ドイツ語初級	小 野	II・火・1	演 習	1	20	出席・態度・課題
L1331 中国語概論	阿 部	I・水・5	演 習	1	30	態度・小テスト
L1350-3 はじめてのフランス語	吹 田	A・I・水・1 B・II・火・2	講義・演習	1	20	出席・小テスト・課題
L1350-5 フランス語初級 I	吹 田	I・火・3	講義・演習	1	20	出席・小テスト・課題
L1350-6 フランス語初級 II	吹 田	II・火・1	講義・演習	1	20	出席・小テスト・課題
L1350-7 フランス語文法 I	吹 田	I・木・3	講 義	1	15	出席・課題・試験
L1350-8 フランス語文法 II	吹 田	II・木・2	講 義	1	15	出席・課題・試験

総合教育科目『英語』選択科目ガイド

英語科目は、他者との共感的なコミュニケーション能力の一環として身につける訓練をすると共に、英語を通して医学に関する問題や社会問題、異文化コミュニケーション及び世界情勢などを考える機会を提供します。

実践的なコミュニケーション能力の養成と共に、将来、英語の医学論文等を読めるように読解力を養うことを主眼としています。具体的には、医師としても必要な論理的な思考力や問題解決能力を培い、英語文献の読解能力や英語で論理的に表現する力を養います。また、社会に生きる人間を相手にする職業上必要な素養として、人間に対する理解を深めると共に、社会、倫理や異文化への問題意識を高め、多角的な視点で物事を見るために議論も行います。

英語科目は必修として 1 年時「総合英語演習」、2 年時「臨床英語」の他に、12コース（各 1 単位）の選択科目があります。

入学試験の高得点を支えた「英語学力」からコミュニケーション手段となる「英語能力」を身につけるためには、自分で努力することが不可欠です。受け身の態度で授業に出ているだけでは到底修得できませんので、積極的な授業参加と課題学習を期待します。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1315-7	World Countries and Culture I	Dilenschneider	1 学 年

○開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [A]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

The development of the Internet with websites such as Facebook, Skype, Youtube and Itunes has made the world smaller than ever before. As a result, students will likely be communicating with people from different countries and cultures, either in or outside Japan, after they graduate. Therefore, in order to understand people from different cultures, the purpose of this course will provide students the opportunity to learn about countries around the world through the context of English. We will use materials provided by the instructor as well as the On Board for More World Adventures textbook.

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

On Board for More World Adventures by Scott Berlin and Megumi Kobayashi

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	Course Introduction	Dilenschneider	E n g l i s h
2	China	Dilenschneider	E n g l i s h
3	Indonesia	Dilenschneider	E n g l i s h
4	Singapore	Dilenschneider	E n g l i s h
5	Kenya	Dilenschneider	E n g l i s h
6	Morocco	Dilenschneider	E n g l i s h
7	Lebanon	Dilenschneider	E n g l i s h
8	Kuwait	Dilenschneider	E n g l i s h
9	Australia	Dilenschneider	E n g l i s h
10	Final Exam	Dilenschneider	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Presentation 33%, Final Exam 33%

○履修上の注意

Understanding and appreciation of Asian and African cultures.

○フィードバックの方法

Comments on assignments and presentations.

○準備学修（予習・復習）

Materials provided by instructor and final exam. (180minutes)

科目番号	科目名	責任者	学年
L1315-8	World Countries and Culture II	Dilenschneider	1 学 年

○開講時期 [2] 学期 [火・1] 時限 [F]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

The development of the Internet with websites such as Facebook, Skype, Youtube and Itunes has made the world smaller than ever before. As a result, students will likely be communicating with people from different countries and cultures, either in or outside Japan, after they graduate. Therefore, in order to understand people from different cultures, the purpose of this course will provide students the opportunity to learn about countries around the world through the context of English. We will use materials provided by the instructor as well as the On Board for more World Adventures textbook.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-2 他者への理解

○教科書

On Board for More World Adventures by Scott Berlin and Megumi Kobayashi

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	Course Introduction	Dilenschneider	E n g l i s h
2	Germany	Dilenschneider	E n g l i s h
3	Finland	Dilenschneider	E n g l i s h
4	Poland	Dilenschneider	E n g l i s h
5	Spain	Dilenschneider	E n g l i s h
6	Ireland	Dilenschneider	E n g l i s h
7	Greece	Dilenschneider	E n g l i s h
8	Argentina	Dilenschneider	E n g l i s h
9	Mexico	Dilenschneider	E n g l i s h
10	Final Exam	Dilenschneider	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Presentation 33%, Final Exam 33%

○履修上の注意

An understanding of European and South American cultures.

○フィードバックの方法

Comments on assignments and presentations.

○準備学修 (予習・復習)

Materials provided by instructor and final exam. (180minutes)

科目番号	科目名	責任者	学年
L1316-7	Critical Thinking	Dilenschneider	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [D]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

This course is designed to help students think critically and initiate discussions regarding a variety of topics. Therefore, students who enroll in this course should feel comfortable expressing their opinions as much of the content which engage students in class discussions. In addition, the instructor will speak in English and students will be encouraged to practice their English reading and writing, skills with other students.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-1 プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1 医師になるための自覚

○教科書

Think Smart - Critical Thinking in Critical Times by Michael Hood

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	Course Introduction	Dilenschneider	E n g l i s h
2	Study Abroad	Dilenschneider	E n g l i s h
3	Immigration	Dilenschneider	E n g l i s h
4	Women in the Workplace	Dilenschneider	E n g l i s h
5	Etiquette in the Digital Age	Dilenschneider	E n g l i s h
6	American Military Bases in Japan	Dilenschneider	E n g l i s h
7	Taxes	Dilenschneider	E n g l i s h
8	Living Together Before Marriage	Dilenschneider	E n g l i s h
9	Animal Rights	Dilenschneider	E n g l i s h
10	Final Exam	Dilenschneider	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Weekly Homework 33%, Final Exam 33%

○履修上の注意

Develop critical thinking skills concerning a variety of issues.

○フィードバックの方法

Comments on assignments.

○準備学修 (予習・復習)

Materials from instructor and final exam. (180minutes)

科目番号	科目名	責任者	学年
L1316-11	English Essay Writing	Dilenschneider	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [木・2] 時限 [K]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

This course will teach students to write English compositions of different lengths and styles. Students will be asked to compose essays and cite sources on topics related to their immediate environment and interests using a variety of different formats and sources.

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-1 医師になるための自覚

○教科書

Materials provided by the instructor

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	Course Introduction & Essay-Intros	Dilenschneider	E n g l i s h
2	Essay	Dilenschneider	E n g l i s h
3	Essay	Dilenschneider	E n g l i s h
4	Compare and Contrast I	Dilenschneider	E n g l i s h
5	Compare and Contrast I	Dilenschneider	E n g l i s h
6	Compare and Contrast II	Dilenschneider	E n g l i s h
7	Compare and Contrast II	Dilenschneider	E n g l i s h
8	Expository Essay	Dilenschneider	E n g l i s h
9	Expository Essay	Dilenschneider	E n g l i s h
10	Final Compositions Due	Dilenschneider	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Weekly Homework 33%, Final Papers 33%

○履修上の注意

Gain and understanding of how to write English composition using different formats.

○フィードバックの方法

Comments on assignments.

○準備学修（予習・復習）

Material provided by the instructor (180minutes)

科目番号	科目名	責任者	学年
L1316-13	Reading Concepts: Science & History	Dilenschneider	1 学 年

○開講時期 〔2〕学期〔木・1〕時限〔J〕

○授業形式 演習

○履修定員 〔12〕名

○ねらい

This course will provide students with the opportunity to challenge and enhance their English reading skills. Specifically, fact finding, reading analysis, vocabulary, and critical thinking skills will be exercised with topics related to science and history. We will use materials provided by the instructor as well as the Reading for Today: Concepts (Fourth Edition) textbook. In addition, the instructor will speak in English and students will be encouraged to practice their English reading, writing, listening and speaking skills with other students.

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-1 医師になるための自覚

○教科書

Materials provided by the instructor.

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	Course Introduction	Dilenschneider	E n g l i s h
2	Stopping the Spread of Superbugs	Dilenschneider	E n g l i s h
3	Stopping the Spread of Superbugs	Dilenschneider	E n g l i s h
4	Learning the Language of Dolphins	Dilenschneider	E n g l i s h
5	Learning the Language of Dolphins	Dilenschneider	E n g l i s h
6	Antarctica: Whose Continent?	Dilenschneider	E n g l i s h
7	Antarctica: Whose Continent?	Dilenschneider	E n g l i s h
8	The Mystery of the Iceman	Dilenschneider	E n g l i s h
9	The Mystery of the Iceman	Dilenschneider	E n g l i s h
10	Final Exam	Dilenschneider	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Presentations 33%, Final Exam 33%

○履修上の注意

Develop reading skills for different types of English passages.

○フィードバックの方法

Comments on assignments.

○準備学修（予習・復習）

Handouts. (180minutes)

科目番号	科目名	責任者	学年
L1316-14	Reading Concepts: Society & Wellness	Dilenschneider	1 学 年

○開講時期 [1] 学期 [水・1] 時限 [B]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

This course will provide students with the opportunity to challenge and enhance their English reading skills. Specifically, fact finding, reading analysis, vocabulary, and critical thinking skills will be exercised with topics related to society and wellness. We will use materials provided by the instructor as well as the Reading for Today: Concepts (Fourth Edition) textbook. In addition, the instructor will speak in English and students will be encouraged to practice their English reading, writing, listening and speaking skills with other students.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1 医師になるための自覚

○教科書

"Reading for Today: Concepts (Fourth Edition) by Lorraine C. Smith and Nancy Nici Mare"

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	Course Introduction	Dilenschneider	E n g l i s h
2	Learning through video games	Dilenschneider	E n g l i s h
3	Learning through video games	Dilenschneider	E n g l i s h
4	The Birth-Order Myth	Dilenschneider	E n g l i s h
5	The Birth-Order Myth	Dilenschneider	E n g l i s h
6	Highs and Lows in Self-Esteem	Dilenschneider	E n g l i s h
7	Highs and Lows in Self-Esteem	Dilenschneider	E n g l i s h
8	Sugar: A Not So Sweet Story	Dilenschneider	E n g l i s h
9	Sugar: A Not So Sweet Story	Dilenschneider	E n g l i s h
10	Final Exam	Dilenschneider	E n g l i s h

○評価の方法

"Attendance, completion of in-class materials, participation, presentations and the final exam will be the most important points for this course. Supplement reading materials appropriate for the course may be provided by the instructor."

○履修上の注意

None

○フィードバックの方法

Comments on assignments.

○準備学修 (予習・復習)

Materials provided by instructor and final exam. (180minutes)

科目番号	科目名	責任者	学年
L1316-15	Music and Lyrics	Dilenschneider	1 学 年

○開講時期 [2] 学期 [火・2] 時限 [G]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

Music is the bridge that helps connect people around the world. To understand the cultural and historical influence of modern music and to help establish connections with patients and medical professionals from around the world, this course will provide students with the opportunity to learn about the music and lyrics from pop songs and musicians from the past and the present. We will use materials provided by the instructor. In addition, the instructor will speak in English and students will be encouraged to practice their English reading, writing, listening, speaking and singing skills with other students.

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-1 医師になるための自覚

○教科書

Materials provided by the instructor.

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	Course Introduction	Dilenschneider	E n g l i s h
2	The Beatles (Maroon 5)	Dilenschneider	E n g l i s h
3	Ben E. King (Bruno Mars)	Dilenschneider	E n g l i s h
4	Earth, Wind and Fire (Foo Fighters)	Dilenschneider	E n g l i s h
5	The Turtles (Green Day)	Dilenschneider	E n g l i s h
6	The Monkees (Justin Bieber)	Dilenschneider	E n g l i s h
7	The Carpenters (Lady Gaga)	Dilenschneider	E n g l i s h
8	John Denver (Imagine Dragons)	Dilenschneider	E n g l i s h
9	Bobby Picket (Adele)	Dilenschneider	E n g l i s h
10	Final Exam	Dilenschneider	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Presentations 33%, Final Exam 33%

○履修上の注意

Students should have communication skills and an enthusiasm for popular music.

○フィードバックの方法

Comments on assignments and presentations

○準備学修（予習・復習）

Materials from the instructor. (180minutes)

科目番号	科目名	責任者	学年
L1317-2	Cultural Tendencies of Nihon in English 英語で日本文化	Lebowitz	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [A]
[2] 学期 [火・2] 時限 [G]

○授業形式 演習

○履修定員 [15] 名

○ねらい

This class examines prominent cultural tendencies in this country as explained in English. Using self-reflection, students will discuss personal experiences with these concepts. Connections will be made with community medicine and patient communication.

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

None

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	Major Religious Traditions in Nihon	Adam Lebowitz	E n g l i s h
2	Origins of Ethnicity: Jōmon and Yayoi	Adam Lebowitz	E n g l i s h
3	Kami and Festivals	Adam Lebowitz	E n g l i s h
4	Social Harmony	Adam Lebowitz	E n g l i s h
5	Food Culture: Fish vs Meat	Adam Lebowitz	E n g l i s h
6	Ichirō	Adam Lebowitz	E n g l i s h
7	Little Traditions	Adam Lebowitz	E n g l i s h
8	Disasters	Adam Lebowitz	E n g l i s h
9	「生き残り」 "Left Behind with Life"	Adam Lebowitz	E n g l i s h
10	Review & Summary	Adam Lebowitz	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Weekly Homework 33%, Final Project & Report 33%

○履修上の注意

特になし。

○フィードバックの方法

授業中のコメント、テスト・レポート採点

○準備学修（予習・復習）

予習（配布資料）（180分）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1317-5	Medical Ethics Topics English Discussion 臨床倫理英語ディスカッション	Lebowitz	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [D]
[2] 学期 [木・1] 時限 [J]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [15] 名

○ねらい

English discussion is a necessary skill for developing professional relations with international colleagues. In this class, we will practice discussion by responding to questions and providing opinions concerning ethical issues in medicine. Class focus is on asking and answering questions, and learning topic-related vocabulary.

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-6 倫理的行動と社会規範の順守

○教科書

None

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	Course Introductions	Adam Lebowitz	E n g l i s h
2	Informed Consent	Adam Lebowitz	E n g l i s h
3	Keeping Promises	Adam Lebowitz	E n g l i s h
4	Surrogates	Adam Lebowitz	E n g l i s h
5	Surgery	Adam Lebowitz	E n g l i s h
6	Organ Transplantation	Adam Lebowitz	E n g l i s h
7	Pediatrics	Adam Lebowitz	E n g l i s h
8	Public Health	Adam Lebowitz	E n g l i s h
9	Gifts	Adam Lebowitz	E n g l i s h
10	Final Discussion	Adam Lebowitz	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Weekly Homework 33%, Short Vocabulary Tests & Report 33%

○履修上の注意

特になし

○フィードバックの方法

授業中のコメント、テスト・レポート採点

○準備学修（予習・復習）

予習（配布資料）（180分）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1317-6	Intro to Research Paper Reading 論文読入門	Lebowitz	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [水・5] 時限 [C]
[2] 学期 [水・1] 時限 [H]

○授業形式 演習

○履修定員 [15] 名

○ねらい

This course introduces basic elements of English research papers (RPs) . We will examine RPs and analyze their elements, such as: Title, Abstract, Introduction, Results, and Discussion. The specific function of these elements in communication, and their connection to the general medical field will be discussed.

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

II-1 医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

None

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	Outline of RP Writing, Titles I	Adam Lebowitz	E n g l i s h
2	Titles II, Abstracts I	Adam Lebowitz	E n g l i s h
3	Abstracts II	Adam Lebowitz	E n g l i s h
4	Introductions I: Establish Territory	Adam Lebowitz	E n g l i s h
5	Introductions II: Establish Niche	Adam Lebowitz	E n g l i s h
6	Introductions III: Occupy Niche	Adam Lebowitz	E n g l i s h
7	Results	Adam Lebowitz	E n g l i s h
8	Discussions I: Opening	Adam Lebowitz	E n g l i s h
9	Discussions II: Limitations	Adam Lebowitz	E n g l i s h
10	Discussions III: Future Directions	Adam Lebowitz	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Weekly Homework 33%, Final Project 33%

○履修上の注意

特になし

○フィードバックの方法

課題の採点・コメント、授業中のコメント

○準備学修（予習・復習）

予習（配布資料）（180分）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1317-7	Medical History Topics English Discussion 医学史英語ディスカッション	Lebowitz	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [水・1] 時限 [B]
[2] 学期 [火・1] 時限 [F]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [15名] 名

○ねらい

English discussion is a necessary skill for developing professional relations with international colleagues. In this class, we will practice discussion by responding to questions and providing opinions concerning historical issues in medicine. Class focus is on asking and answering questions, and learning topic-related vocabulary.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-1 プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1 医師になるための自覚

○教科書

None

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	Introduction	Adam Lebowitz	E n g l i s h
2	History of Anatomy	Adam Lebowitz	E n g l i s h
3	History of Pharmacology	Adam Lebowitz	E n g l i s h
4	History of Medical Education	Adam Lebowitz	E n g l i s h
5	History of Epidemic Diseases	Adam Lebowitz	E n g l i s h
6	History of Ideas about Blood	Adam Lebowitz	E n g l i s h
7	History of Medical Technology	Adam Lebowitz	E n g l i s h
8	History of Surgery	Adam Lebowitz	E n g l i s h
9	History of Women and Medicine	Adam Lebowitz	E n g l i s h
10	History of Pediatrics	Adam Lebowitz	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Weekly Homework 33%, Short Vocabulary Tests & Report 33%

○履修上の注意

None

○フィードバックの方法

授業中のコメント、テスト・レポート採点

○準備学修 (予習・復習)

予習 (配布資料) (180分)

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 3 1 8	英語音声学入門～正しい発音を学ぼう～	Lebowitz	1 学 年

- 開講時期 〔1〕学期〔木・2〕時限〔D〕
 〔2〕学期〔木・2〕時限〔K〕

○授業形式 講義・演習

○履修定員 〔10〕名

○ねらい

本来はコミュニケーション手段としての英語であるが、高校までの学習は読解中心にならざるを得ず、英語を聞き取り話す練習が不足している学生も多くいるであろう。英語の4技能のうちlistening comprehensionならびにspeakingの基礎となる発音とリズムを集中的に学習し、英語運用能力を向上させることを本講座の目標とする。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-3 自己評価と研鑽

○教科書

特に指定せず、随時資料を配布する。

○参考書

英語音声学入門 松坂ヒロシ著 研究社

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	イントロダクション	清水素子	外 来 講 師
2	母音1	清水素子	外 来 講 師
3	母音2	清水素子	外 来 講 師
4	母音3	清水素子	外 来 講 師
5	母音4	清水素子	外 来 講 師
6	子音1	清水素子	外 来 講 師
7	子音2	清水素子	外 来 講 師
8	子音3	清水素子	外 来 講 師
9	子音4	清水素子	外 来 講 師
10	テスト	清水素子	外 来 講 師

○評価の方法

授業の出席およびテスト

○履修上の注意

特になし

○フィードバックの方法

授業中のコメント、テストの採点

○準備学修（予習・復習）

予習（配布資料）（180分）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1320-3	はじめてのドイツ語	小野 純一	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [水・1] 時限 [B]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

ドイツ語の初歩を学びます。簡単な文法・単語を駆使した日常会話を目指し、次のステップに進むための文法の重要項目も身につけます。ドイツ語はヨーロッパの主要言語であるだけでなく、人類の活動にとっても重要な言語の一つです。政治・経済だけでなく、文学・哲学・科学など人類文化にもきわめて重要な貢献の数々を残しています。また芸術、とくに音楽や絵画において、創作においても歴史を知る上でも研究にとっても、ドイツ語は最も重要なツールの一つです。ドイツ語を窓口にしてヨーロッパやその他の地域に関心を向け、知的な広さや深みを実現できる言語的な基礎を提供します。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

『Panorama Deutsch Express』白水社、2022

○参考書

『独和大辞典コンパクト版』小学館

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	子音と母音の発音	中山 純一	哲 学
2	あいさつ（単数 語順）1	中山 純一	哲 学
3	あいさつ（単数 語順）2	中山 純一	哲 学
4	紹介（複数 動詞sein 数）1	中山 純一	哲 学
5	紹介（複数 動詞sein 数）2	中山 純一	哲 学
6	持ち物（性 冠詞 複数形）1	中山 純一	哲 学
7	持ち物（性 冠詞 複数形）2	中山 純一	哲 学
8	食事（haben）1	中山 純一	哲 学
9	食事（haben）2	中山 純一	哲 学
10	家族（冠詞類）1	中山 純一	哲 学

○評価の方法

授業参加態度、出席、課題によって評価する。

○履修上の注意

事前の知識がまったくない状態で受講可能。

○フィードバックの方法

試験の結果について、講評を示し、模範解答等を掲載します。

○準備学修（予習・復習）

予習として、学習予定の課の単語の意味を辞書で調べ、ノートに整理してきてください。また、教科書をあらかじめ音読してきてください。(90分)

復習として、授業中に板書された内容をノートに体系的に整理してきてください。また、教科書を再度、音読してきてください。(90分)

科目番号	科目名	責任者	学年
L1320-4	ドイツ語初級	小野 純一	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [火・1] 時限 [F]

○授業形式 演習

○履修定員 [20] 名

○ねらい

ドイツ語の初歩を学びます。簡単な文法・単語を駆使した日常会話を目指し、次のステップに進むための文法の重要項目も身につけます。ドイツ語はヨーロッパの主要言語であるだけでなく、人類の活動にとっても重要な言語の一つです。政治・経済だけでなく、文学・哲学・科学など人類文化にもきわめて重要な貢献の数々を残しています。また芸術、とくに音楽や絵画において、創作においても歴史を知る上でも研究にとっても、ドイツ語は最も重要なツールの一つです。ドイツ語を窓口にしてヨーロッパやその他の地域に関心を向け、知的な広さや深みを実現できる言語的な基礎を提供します。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

『Panorama Deutsch Express』白水社、2022

○参考書

『独和大辞典コンパクト版』小学館

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	家族（冠詞類）2	中山 純一	哲 学
2	好きなこと（語幹変化動詞、命令形）1	中山 純一	哲 学
3	好きなこと（語幹変化動詞、命令形）2	中山 純一	哲 学
4	ファッション（3格支配の前置詞）	中山 純一	哲 学
5	街にて（4格支配の前置詞、複合動詞）	中山 純一	哲 学
6	休暇（助動詞、未来形、zu不定詞）1	中山 純一	哲 学
7	休暇（助動詞、未来形、zu不定詞）2	中山 純一	哲 学
8	身体（再帰、従属文）	中山 純一	哲 学
9	活動（過去形、現在完了）	中山 純一	哲 学
10	天候（非人称、比較級・最上級）	中山 純一	哲 学

○評価の方法

授業参加態度、出席、課題によって評価する。

○履修上の注意

文法を網羅せず、会話を重視します。「はじめてのドイツ語」を履修していること。

○フィードバックの方法

試験の結果につて、講評を示し、模範解答等を掲載します。

○準備学修（予習・復習）

予習として、学習予定の課の単語の意味を辞書で調べ、ノートに整理してきてください。また、教科書をあらかじめ音読してきてください。(90分)

復習として、授業中に板書された内容をノートに体系的に整理してきてください。また、教科書を再度、音読してきてください。(90分)

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 3 3 1	中国語概論	阿 部 博 幸	1 学 年

○開講時期 [1] 学期 [水・5] 時限 [C]

○授業形式 演習

○履修定員 [30] 名

○ねらい

中国語は多くの点で日本語や英語と異なる。中国語の発音と文法の基礎を学びながら、古くから日本と深い関わりをもってきた身近な異文化に対する理解を深め、コミュニケーション能力と異文化に接する態度を身につける。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

阿部博幸・王衛清『語感をみがく入門中国語』朝日出版社

○参考書

なし

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	発音（1）声調・有気音/無気音など	阿 部 博 幸	中 国 語
2	発音（2）日本語にない子音・母音など	阿 部 博 幸	中 国 語
3	述語による文の種類、中国語の語順	阿 部 博 幸	中 国 語
4	動詞述語文・形容詞述語文	阿 部 博 幸	中 国 語
5	疑問文の種類	阿 部 博 幸	中 国 語
6	修飾関係	阿 部 博 幸	中 国 語
7	存在表現と焦点の当て方	阿 部 博 幸	中 国 語
8	過去の表現と日本語の「～た」の諸相	阿 部 博 幸	中 国 語
9	「動作の進行」と「状態の持続」	阿 部 博 幸	中 国 語
10	助動詞と前置詞（英語との違い）	阿 部 博 幸	中 国 語

○評価の方法

授業への参加態度とMoodleによる同期テストで評価する。

○履修上の注意

授業に積極的に参加すれば加点し、遅刻・欠席などに対しては減点する。授業と並行してMoodleの課題をすること。

この授業についての問い合わせは、habe@jichi.ac.jpまで。

○フィードバックの方法

各自がMoodleの課題を進めながら、授業中やメールでの質問を受けつける。

○準備学修（予習・復習）

Moodleの課題は先取りして学習することができる。

また、Moodleには教科書の練習問題の正解と解説も載せているので、自分の都合に合わせて学習を進めることができる。（180分）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1350-3	はじめてのフランス語	吹田 映子	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [水・1] 時限 [B]
[2] 学期 [火・2] 時限 [G]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [20] 名

○ねらい

カフェオレ、レジュメ、サボる、…。日本語の中に、また英語の中にも、実は多くのフランス語が入り込んでいます。また、言語としてフランス語が使われている地域はフランスだけではありません。隣のベルギーを始め、ルクセンブルク、スイス、ルーマニア、カナダ（ケベック州）、モロッコ、アルジェリア、マリ、カメルーン、コンゴ等、様々な地域があります。フランス語の学習を機にあなたの世界を広げてみませんか。フランス語に限らず、言語の習得は新たな世界観の獲得を意味します。この授業では会話表現を中心に、お互いを知るための道具としてフランス語を学びます。また、教材として用いる映画はパリの中学校の様子をドキュメンタリー風に撮ったものです。本講義を通じ、フランス語とそれに関連する文化への関心を高めてください。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

プリントを配布します。

○参考書

授業中に紹介します。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	自己紹介をする	吹田 映子	文 学
2	授業中に使う表現を覚える	吹田 映子	文 学
3	主語に合わせて動詞を活用させる	吹田 映子	文 学
4	命令文の作り方	吹田 映子	文 学
5	否定文の作り方	吹田 映子	文 学
6	疑問文の作り方（1）Oui / Non	吹田 映子	文 学
7	疑問文の作り方（2）様々な疑問詞	吹田 映子	文 学
8	理由を尋ねる・説明する	吹田 映子	文 学
9	復習と応用（1）	吹田 映子	文 学
10	復習と応用（2）	吹田 映子	文 学

○評価の方法

出席、小テスト、課題

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

採点した提出物を返却し、授業中に講評する

○準備学修（予習・復習）

課題への取り組み（90分）、小テストの勉強（90分）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1350-5	フランス語初級Ⅰ	吹田 映子	1 学年

○開講時期 〔1〕学期〔火・3〕時限〔A〕

○授業形式 講義・演習

○履修定員 〔20〕名

○ねらい

英語はもう十分学んだという皆さん、あるいは英語に苦手意識のある皆さんも、そろそろ別な言語にチャレンジしてみませんか。新しい言語を学ぶということは、これまでとは違う世界観を獲得し、もう一人の自分になることです。フランス語は国境なき医師団（1971年にフランスで設立）の公用語でもあり、英語の語彙の35%はフランス語に由来するとも言われます。ゼロからのスタートなので上手い下手を気にする必要はありません。楽しんでみずからの可能性を掘りましょう。この授業では、音読と筆記を重視したドリル形式のプリントを使って語彙と文法を着実に身につけ、少し長めの文章を自力で読解できるようになることを目指します。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

なし

○参考書

『トレーニングペーパー フランス語教養課程 文法中心学習』（教育社）

『トレーニングペーパー フランス語教養課程 読解編』（教育社）

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	不定冠詞＋名詞	吹 田 映 子	文 学
2	定冠詞＋名詞	吹 田 映 子	文 学
3	Qu'est-ce que c'est?（これは何?）	吹 田 映 子	文 学
4	主語に合わせて動詞を活用させる	吹 田 映 子	文 学
5	形容詞の語尾変化	吹 田 映 子	文 学
6	La chambre de Marc（マルクの部屋）	吹 田 映 子	文 学
7	否定文	吹 田 映 子	文 学
8	《-er》動詞の活用	吹 田 映 子	文 学
9	Masao et André（正夫とアンドレ）	吹 田 映 子	文 学
10	復習	吹 田 映 子	文 学

○評価の方法

出席、小テスト、課題

○履修上の注意

本講義の続きを「フランス語初級Ⅱ」で行うため、併せての履修が望ましい。また、より効果的な学習のために他のフランス語科目も積極的に履修してほしい。

○フィードバックの方法

採点した提出物を返却し、授業中に講評する

○準備学修（予習・復習）

課題への取り組み（90分）、小テストの勉強（90分）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1350-6	フランス語初級Ⅱ	吹田 映子	1 学年

○開講時期 〔2〕学期〔火・1〕時限〔F〕

○授業形式 講義・演習

○履修定員 〔20〕名

○ねらい

英語はもう十分学んだという皆さん、あるいは英語に苦手意識のある皆さんも、そろそろ別な言語にチャレンジしてみませんか。新しい言語を学ぶということは、これまでとは違う世界観を獲得し、もう一人の自分になることです。フランス語は国境なき医師団（1971年にフランスで設立）の公用語でもあり、英語の語彙の35%はフランス語に由来するとも言われます。ゼロからのスタートなので上手い下手を気にする必要はありません。楽しんでみずからの可能性を掘りましょう。この授業では、音読と筆記を重視したドリル形式のプリントを使って語彙と文法を着実に身につけ、少し長めの文章を自力で読解できるようになることを目指します。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

なし

○参考書

『トレーニングペーパー フランス語教養課程 文法中心学習』（教育社）

『トレーニングペーパー フランス語教養課程 読解編』（教育社）

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	疑問文（1）	吹 田 映 子	文 学
2	疑問文（2）	吹 田 映 子	文 学
3	Quelle belle musique!（なんて美しい音楽なんだ！）	吹 田 映 子	文 学
4	動詞 avoir（持っている）	吹 田 映 子	文 学
5	Le visage（顔）	吹 田 映 子	文 学
6	指示形容詞	吹 田 映 子	文 学
7	所有形容詞	吹 田 映 子	文 学
8	La maison de Marc Legrand（マルク・ルグランの家）	吹 田 映 子	文 学
9	動詞 aller（行く）	吹 田 映 子	文 学
10	動詞 venir（来る）	吹 田 映 子	文 学

○評価の方法

出席、小テスト、課題

○履修上の注意

1学期開講の「フランス語初級Ⅰ」を履修していることが望ましいが、未履修でも可。また、より効果的な学習のために他のフランス語科目も積極的に履修してほしい。

○フィードバックの方法

採点した提出物を返却し、授業中に講評する

○準備学修（予習・復習）

課題への取り組み（90分）、小テストの勉強（90分）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1350-7	フランス語文法 I	吹田 映子	1 学年

○開講時期 〔1〕学期〔木・3〕時限〔E〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔15〕名

○ねらい

フランス語文法 I・II では、1～2 学期を通してフランス語の基本的文法体系を概観することを目指します。このため、「フランス語初級 I・II」の授業より学習する事項はずっと多く、かつ授業の進むスピードは速くなります。また習得の助けとして毎週課題の提出があります。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

渡邊淳也著、『明快フランス語文法 改訂版』、早美出版社（2,200円+税）

○参考書

いずれかの仏和辞典（『プチ・ロワイヤル仏和辞典』旺文社を推奨）

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	発音とつづり字	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
2	名詞グループ①（名詞の性と数、冠詞）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
3	名詞グループ②（人称代名詞、中性代名詞）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
4	名詞グループ③（指示・所有・疑問代名詞）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
5	形容詞グループ①（形容詞の一致）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
6	形容詞グループ②（指示・所有・疑問形容詞）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
7	形容詞グループ③（分詞）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
8	形容詞グループ④（関係代名詞）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
9	副詞グループ（従属接続詞、ジェロンディフ、疑問副詞）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
10	動詞①（第 1 群規則動詞、近接未来・過去）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師

○評価の方法

出席、毎週の課題提出、期末の課題あるいは試験

○履修上の注意

フランス語の基本的文法を一通り学習したい方は I・II とも受講してください。II のみの受講の場合、I の「授業内容、授業項目」程度を既習していることを前提とします。

○フィードバックの方法

提出された課題や試験の答案を採点し返却する

○準備学修（予習・復習）

課題への取り組み（3 時間）

科目番号	科目名	責任者	学年
L1350-8	フランス語文法Ⅱ	吹田 映子	1 学年

○開講時期 〔2〕学期〔木・2〕時限〔K〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔15〕名

○ねらい

フランス語文法Ⅰ・Ⅱでは、1～2学期を通してフランス語の基本的文法体系を概観することを目指します。このため、「フランス語初級Ⅰ・Ⅱ」の授業より学習する事項はずっと多く、かつ授業の進むスピードは速くなります。また習得の助けとして毎週課題の提出があります。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-2 他者への理解

○教科書

渡邊淳也著、『明快フランス語文法 改訂版』、早美出版社（2,200円+税）

○参考書

いずれかの仏和辞典（『プチ・ロワイヤル仏和辞典』旺文社を推奨）

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	動詞②（第2群規則動詞）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
2	動詞③（第3群不規則動詞）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
3	動詞④（第3群不規則動詞）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
4	動詞⑤（受動態、使役動詞）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
5	動詞⑥（代名動詞、知覚動詞）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
6	動詞の時制と叙法①（複合過去、命令法）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
7	動詞の時制②（半過去・大過去）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
8	動詞の時制③（単純未来・前未来）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
9	動詞の叙法②（条件法）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
10	動詞の叙法③（接続法）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師

○評価の方法

出席、毎週の課題提出、期末の課題あるいは試験

○履修上の注意

- ・フランス語の基本的文法を学習したい方はⅠ・Ⅱとも受講してください。Ⅱのみの受講の場合、Ⅰの「授業内容、授業項目」に該当する程度を既習していることを前提とします。
- ・Ⅰ・Ⅱ両方の受講者には、夏季休暇中の課題を出します。

○フィードバックの方法

提出された課題や試験の答案を採点し返却する

○準備学修（予習・復習）

課題への取り組み（3時間）

編 集 教 務 委 員 会

編集責任者 教 務 委 員 長

編集担当者 総 合 教 育 部 会 長

学事課 教務係